

## 7. 仕事と子育ての両立に関することについておたずねします。

問17 あなたは、子育てと仕事を両立させるためには、どのような取組を進めることが必要だと思いますか。(3つまで○)

第1位「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」(50.2%)、第2位「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」(37.0%)、第3位「育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充」(32.9%)となっている。

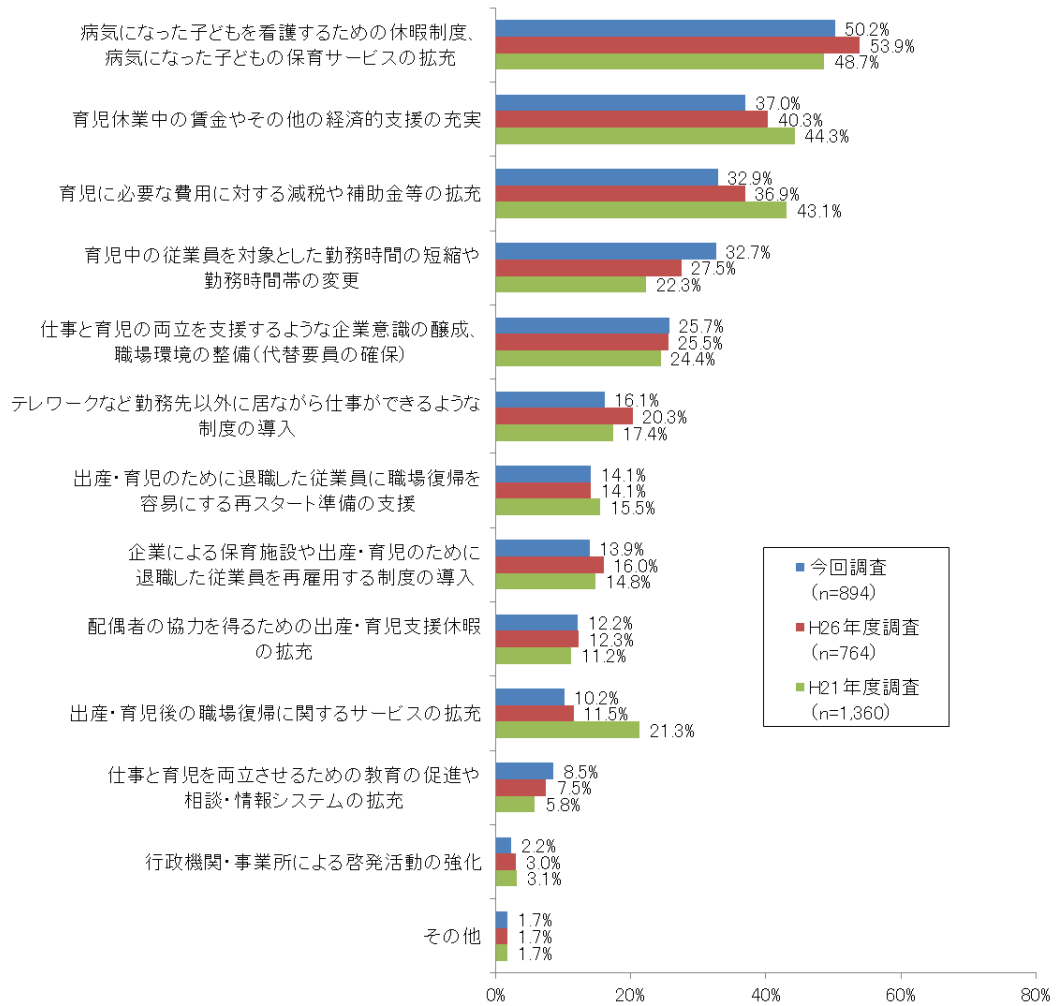
過去調査との比較では、項目の順位は概ね同様の傾向を示している。その中で今回は、第4位「育児中の従業員を対象とした勤務時間の短縮や勤務時間帯の変更」の割合が高まっている。

性別では、男女とも全体と概ね同様の傾向を示している。その中で女性が「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」(男性:40.4%、女性:55.3%)が男性を、「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」(男性:45.5%、女性:33.1%)は男性が女性それぞれ上回っている。

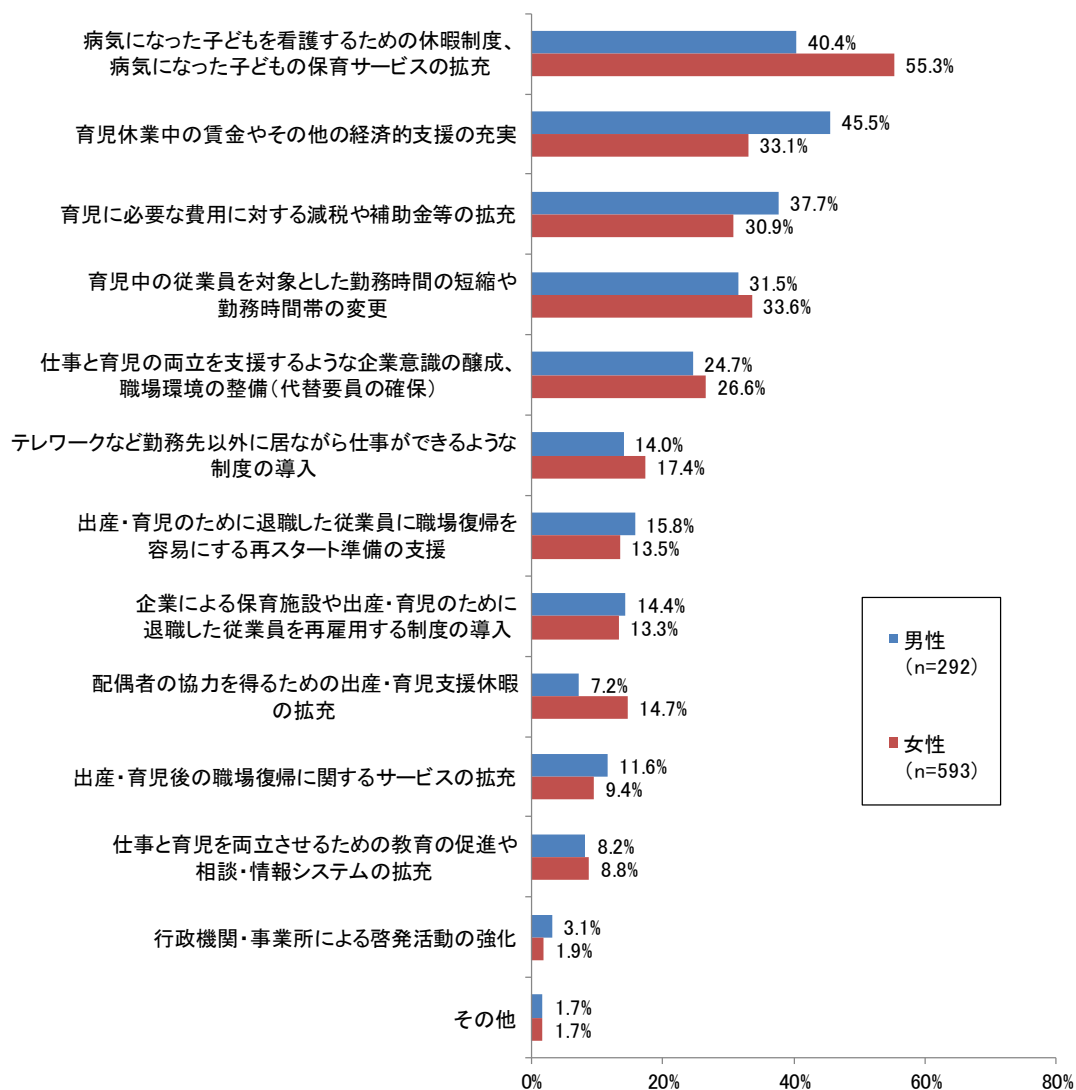
年代別では、いずれの年代も全体と概ね同様の傾向を示しているが、20歳代は「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」の割合が50.3%で他の年代よりも特に高くなっている。一方、30歳代と40歳代は、ほぼ半数が「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」を必要としている。

二次医療圏別では、日向入郷、宮崎東諸県、西都児湯、日南串間で「育児中の従業員を対象とした勤務時間の短縮や勤務時間帯の変更」の割合が高く、上位3位に入っている。

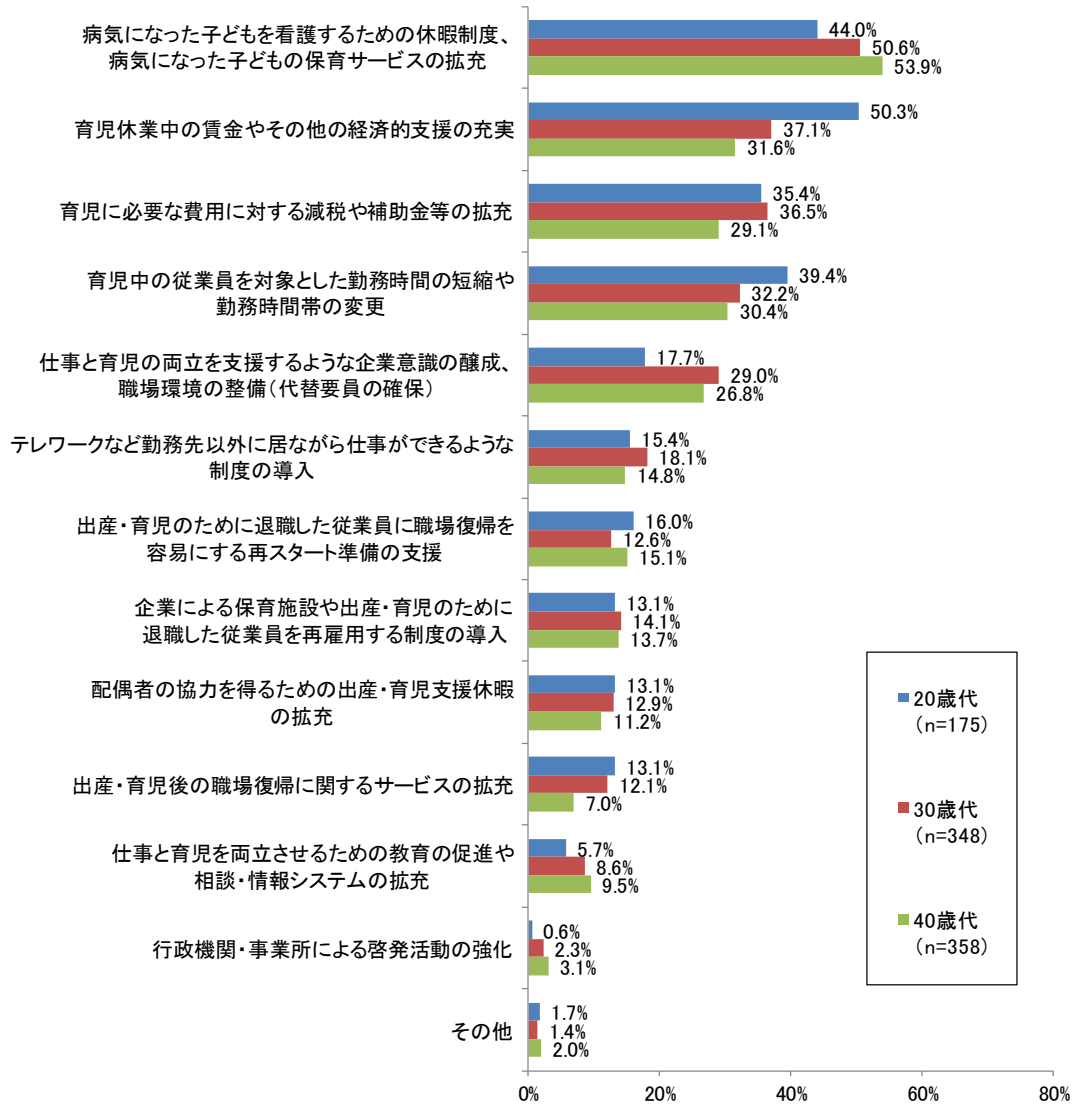
<過去調査との比較>



<性別>



<年代別>



＜二次医療圏別＞

	宮崎県北部 (n=109)	日向入郷 (n=72)	宮崎東諸県 (n=355)	西都児湯 (n=95)	日南串間 (n=40)	都城北諸県 (n=137)	西諸 (n=51)
病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充	48.6%	58.3%	51.0%	52.6%	57.5%	39.4%	68.6%
育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実	43.1%	41.7%	34.6%	31.6%	42.5%	40.1%	31.4%
育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充	40.4%	30.6%	27.9%	31.6%	25.0%	43.1%	35.3%
育児中の従業員を対象とした勤務時間の短縮や勤務時間帯の変更	25.7%	40.3%	33.2%	33.7%	30.0%	33.6%	25.5%
仕事と育児の両立を支援するような企業意識の醸成、職場環境の整備(代替要員の確保)	25.7%	25.0%	25.1%	25.3%	25.0%	29.2%	21.6%
テレワークなど勤務先以外に居ながら仕事ができるような制度の導入	14.7%	12.5%	19.4%	15.8%	15.0%	11.7%	17.6%
出産・育児のために退職した従業員に職場復帰を容易にする再スタート準備の支援	14.7%	12.5%	12.7%	21.1%	25.0%	13.1%	11.8%
企業による保育施設や出産・育児のために退職した従業員を再雇用する制度の導入	19.3%	9.7%	13.8%	13.7%	10.0%	10.2%	17.6%
配偶者の協力を得るための出産・育児支援休暇の拡充	15.6%	13.9%	10.4%	14.7%	7.5%	10.9%	17.6%
出産・育児後の職場復帰に関するサービスの拡充	9.2%	5.6%	11.8%	7.4%	12.5%	10.9%	5.9%
仕事と育児を両立させるための教育の促進や相談・情報システムの拡充	4.6%	11.1%	9.9%	8.4%	12.5%	8.0%	0.0%
行政機関・事業所による啓発活動の強化	0.9%	0.0%	2.8%	2.1%	5.0%	2.9%	2.0%
その他	1.8%	4.2%	1.4%	1.1%	0.0%	2.2%	2.0%

問18 あなたは、今後、男性が女性とともに子育てに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○)

第1位「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(45.7%)、第2位「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(41.8%)、第3位「労働時間短縮や休暇制度を普及すること」(40.3%)となっている。

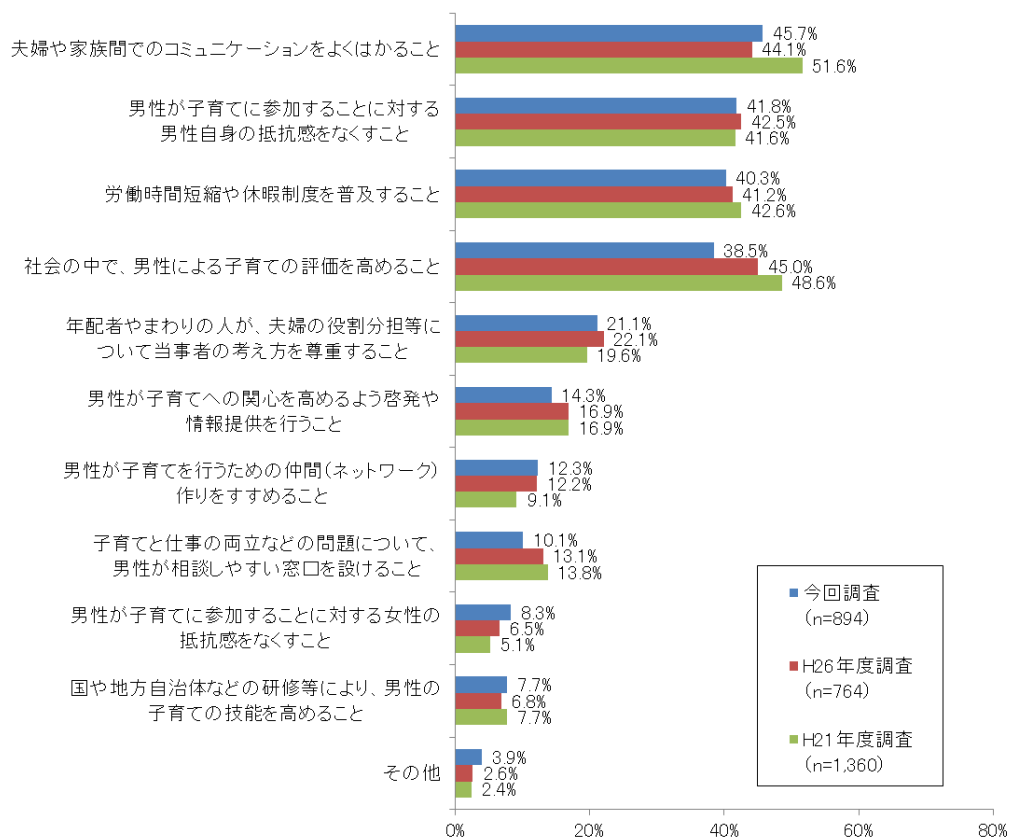
過去調査との比較では、上位項目の順位は概ね同様の傾向を示している。その中で第4位「社会の中で、男性による子育ての評価を高めること」(38.5%)は、上位3項目とほぼ同じ割合となっている。

性別では、男女とも全体と概ね同様の傾向を示している。その中で「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(男性:37.0%、女性:44.5%)は女性が男性を7.5ポイント上回っており、「労働時間短縮や休暇制度を普及すること」(男性:47.3%、女性:37.3%)は男性が女性を10.0ポイント上回っている。

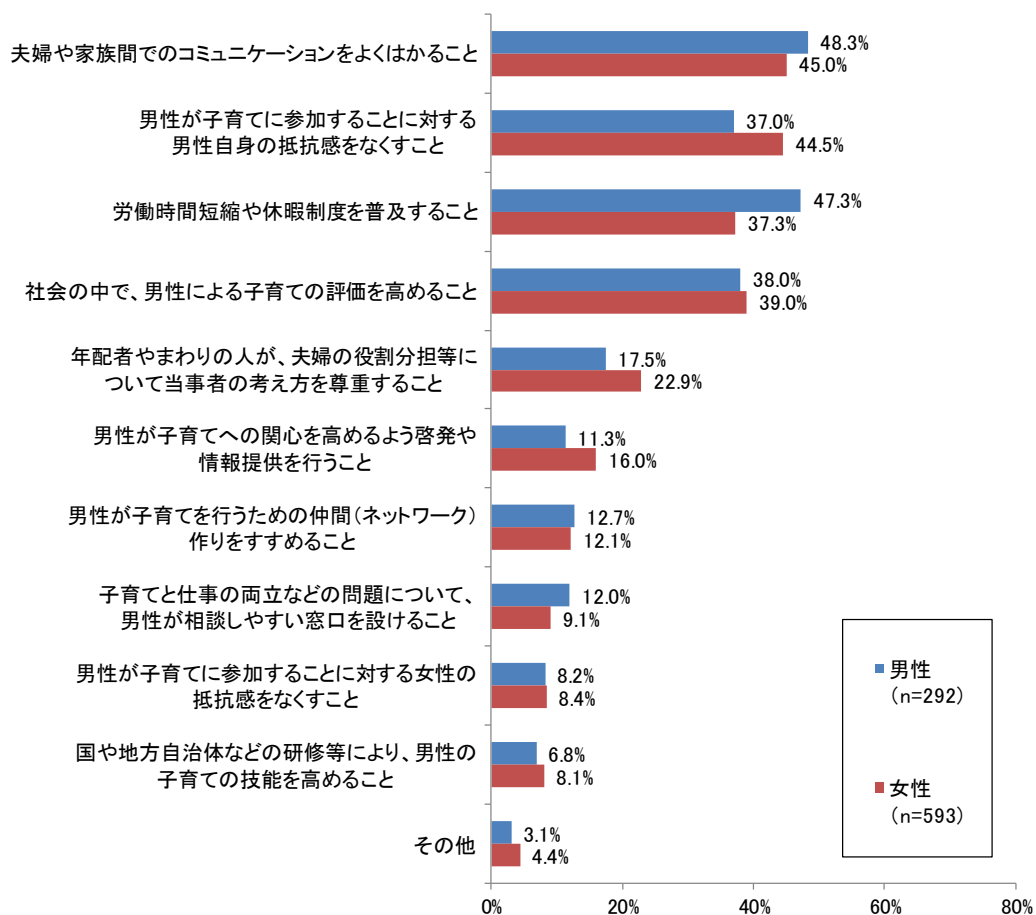
年代別では、いずれの年代も概ね同様の傾向を示しているが、20歳代は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合(53.7%)が他の年代よりも特に高くなっている。

二次医療圏別では、宮崎県北部、日向入郷、宮崎東諸県、西都児湯で「社会の中で、男性による子育ての評価を高めること」の割合が高く、上位3位に入っている。

### <過去調査との比較>

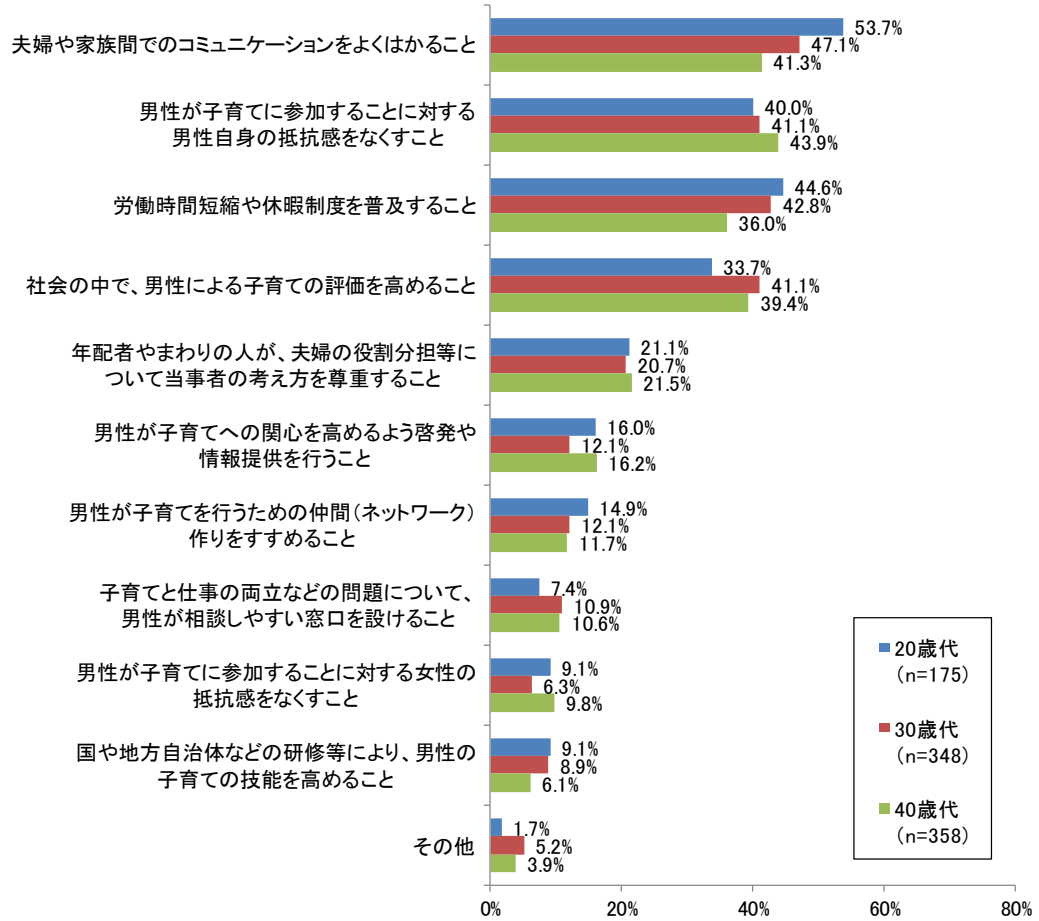


<性別>





<年代別>



<二次医療圏別>

	宮崎県北部 (n=109)	日向入郷 (n=72)	宮崎東諸県 (n=355)	西都児湯 (n=95)	日南串間 (n=40)	都城北諸県 (n=137)	西諸 (n=51)
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	52.3%	52.8%	40.8%	48.4%	50.0%	47.4%	47.1%
男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	39.4%	44.4%	44.8%	36.8%	40.0%	37.2%	51.0%
労働時間短縮や休暇制度を普及すること	35.8%	33.3%	42.0%	40.0%	42.5%	42.3%	41.2%
社会の中で、男性による子育ての評価を高めること	44.0%	38.9%	40.8%	40.0%	27.5%	31.4%	35.3%
年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること	17.4%	19.4%	20.0%	29.5%	17.5%	25.5%	19.6%
男性が子育てへの関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	13.8%	11.1%	13.2%	9.5%	20.0%	21.2%	11.8%
男性が子育てを行うための仲間(ネットワーク)作りをすすめること	16.5%	15.3%	11.5%	13.7%	15.0%	10.9%	7.8%
子育てと仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	11.9%	6.9%	10.7%	9.5%	15.0%	7.3%	5.9%
男性が子育てに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	5.5%	6.9%	10.7%	5.3%	5.0%	8.8%	3.9%
国や地方自治体などの研修等により、男性の子育ての技能を高めること	8.3%	11.1%	5.9%	7.4%	7.5%	10.2%	5.9%
その他	4.6%	8.3%	3.4%	1.1%	5.0%	3.6%	3.9%

問19 あなたは、育児休業制度を利用したいと思いますか。

現在、働いていない人は、働いていると想定してお答えください。また、子育ての予定のない人は子育てすると想定してお答えください。(〇は1つ)

「利用したい」の割合が60.5%となっている。「利用したいが難しい」は21.5%、「利用したくない」は4.3%となっている。

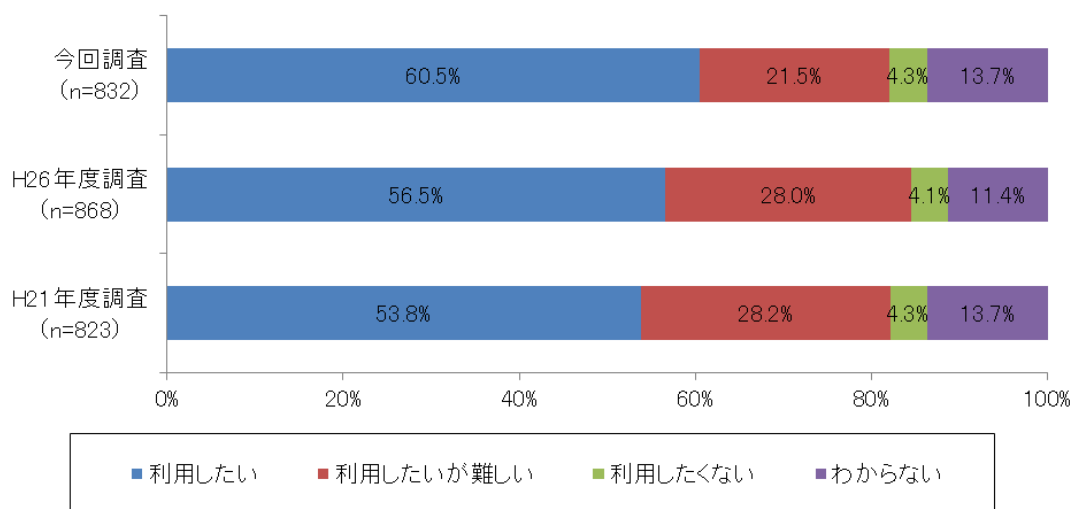
過去調査との比較では、「利用したい」の割合は次第に高まる傾向を示している。

性別では、「利用したい」が女性で73.9%で、男性は33.1%にとどまっている。しかしその男性も36.1%は、「利用したいが難しい」としている。

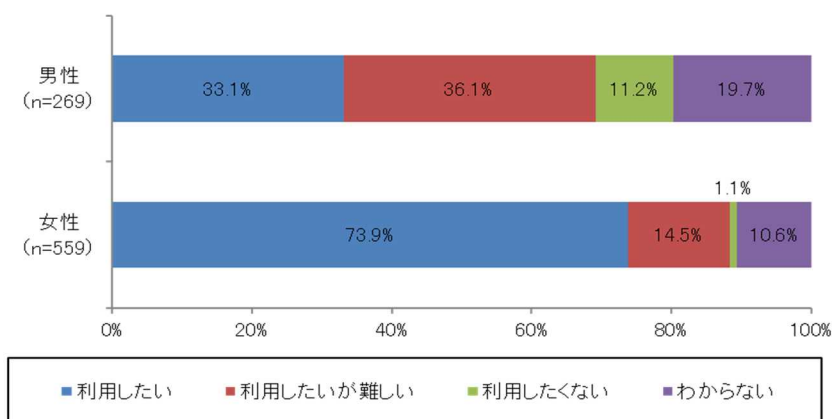
年代別では、すべての年代で「利用したい」が最も高い割合を占めているが、年代が高くなるにつれて、「利用したいが難しい」の割合が高くなっている。

二次医療圏別では、いずれの圏域も概ね同様の傾向を示しているが、宮崎県北部、日向入郷、日南串間では「利用したいが難しい」が全体(21.5%)を上回っている。

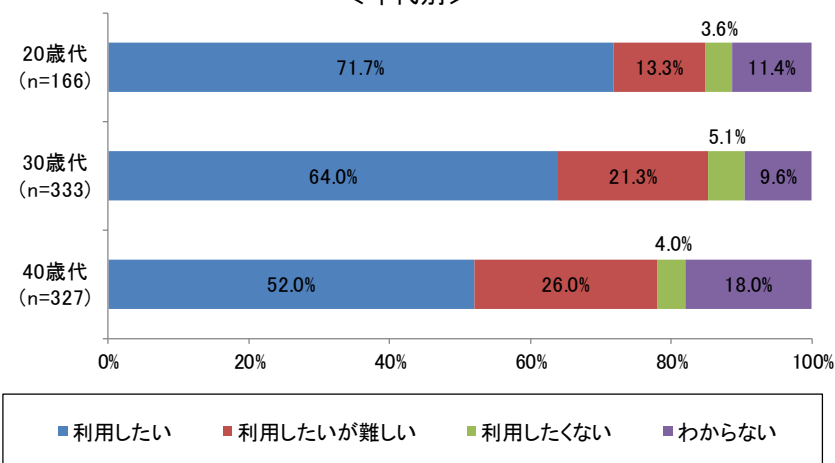
#### <過去調査との比較>



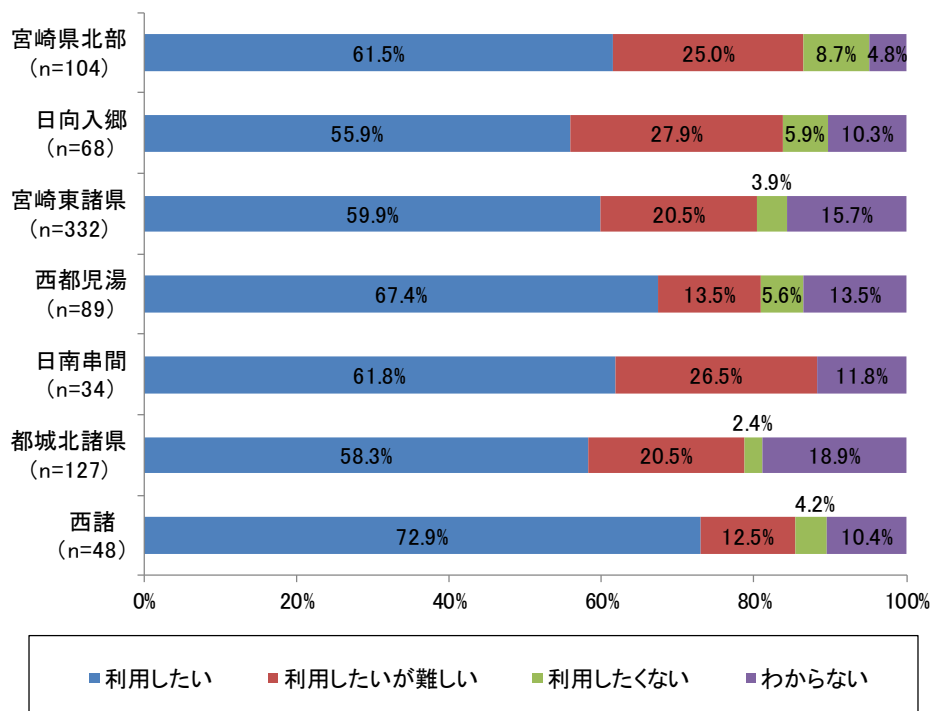
<性別>



<年代別>



<二次医療圏別>



問20 問19で選択肢「利用したいが難しい」又は「利用したくない」を選ばれた方におうかがいします。

(1) あなたがそう思う理由は何ですか。(3つまで○)

第1位「職場に迷惑がかかるから」(62.8%)、第2位「収入が減るから」(49.8%)、第3位「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」(36.7%)となっている。

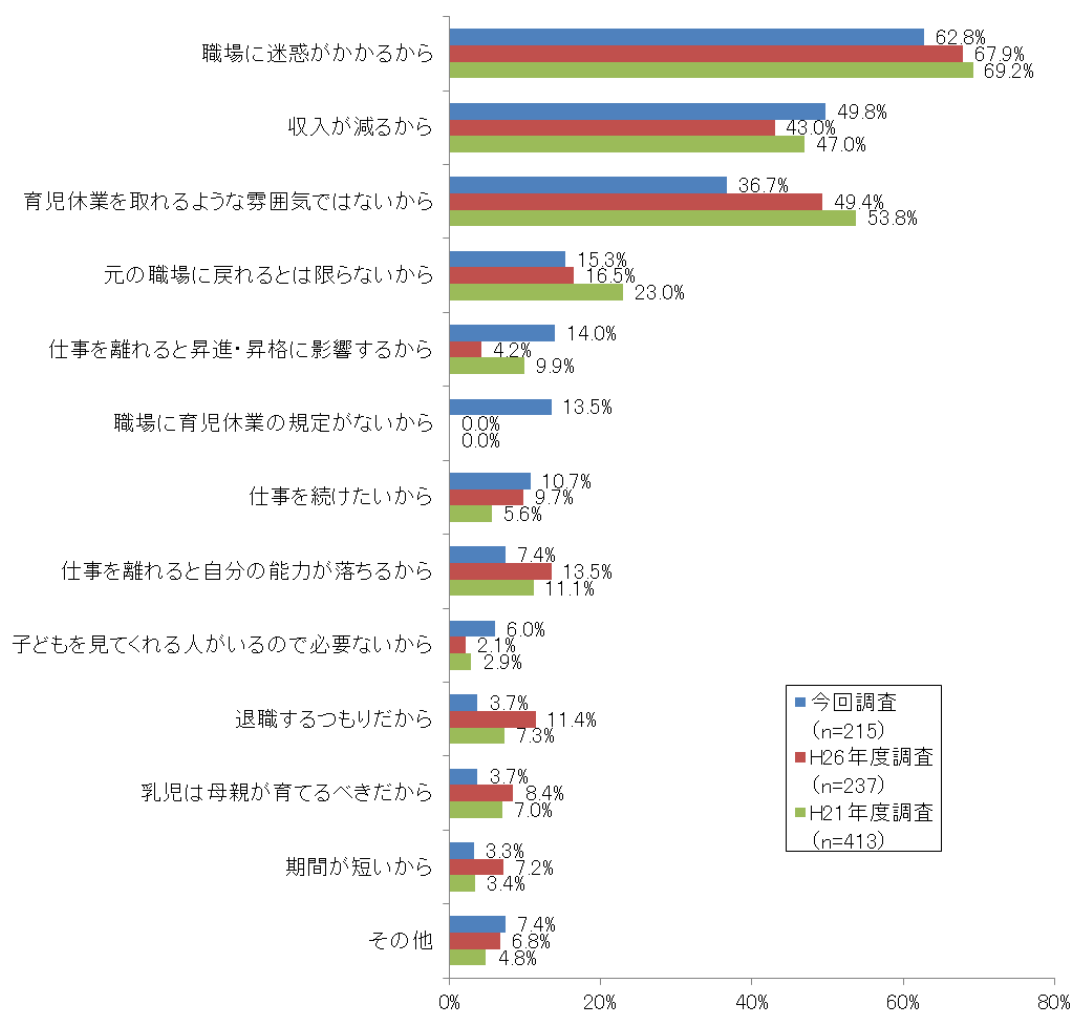
過去調査との比較では、項目の上位は概ね同様の傾向を示している。その中で、「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」の割合が低下する傾向を示している。

性別では、男女とも概ね同様の傾向を示している。その中で「収入が減るから」(男性:56.7%、女性:40.2%)は男性が女性を16.5ポイント上回っている。

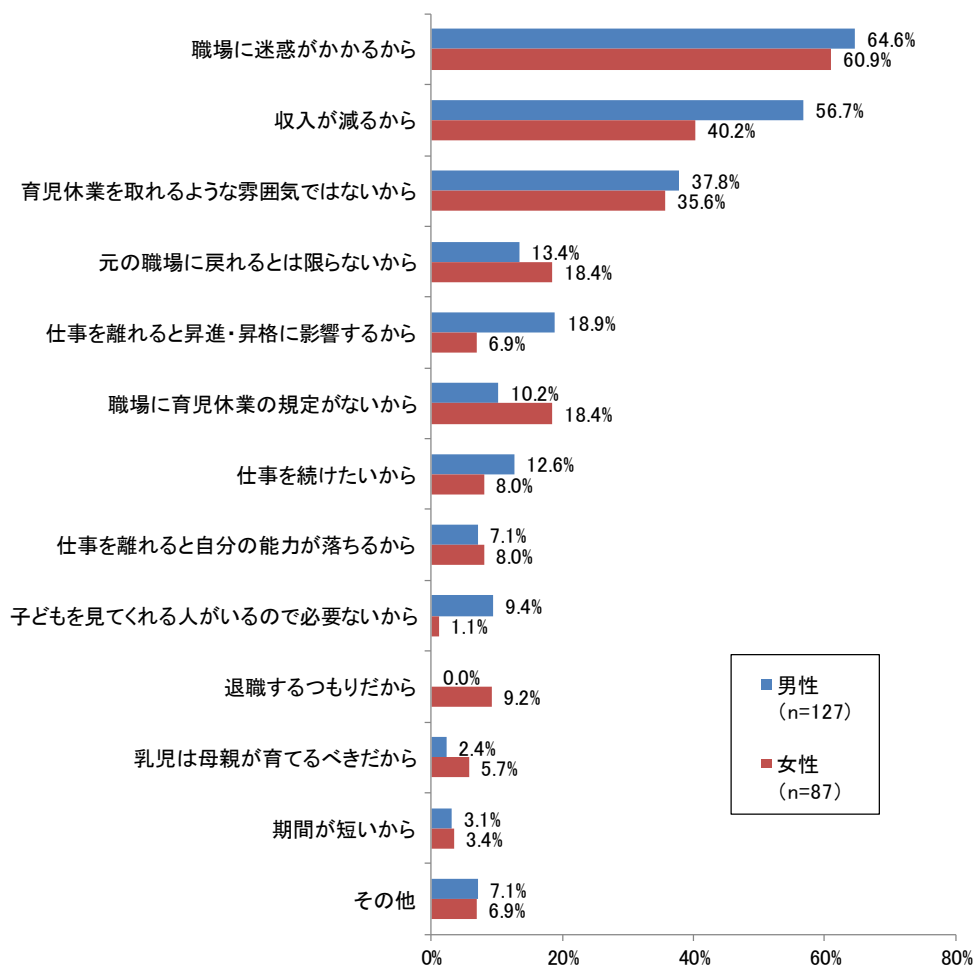
年代別では、いずれの年代も概ね同様の傾向を示しているが、「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」の割合は年代が上がるにつれて高くなっている。また、「収入が減るから」は、年代が低いほど高い割合を示している。

※二次医療圏別では、宮崎東諸県を除いて回答数が少ないため、分析はしない。

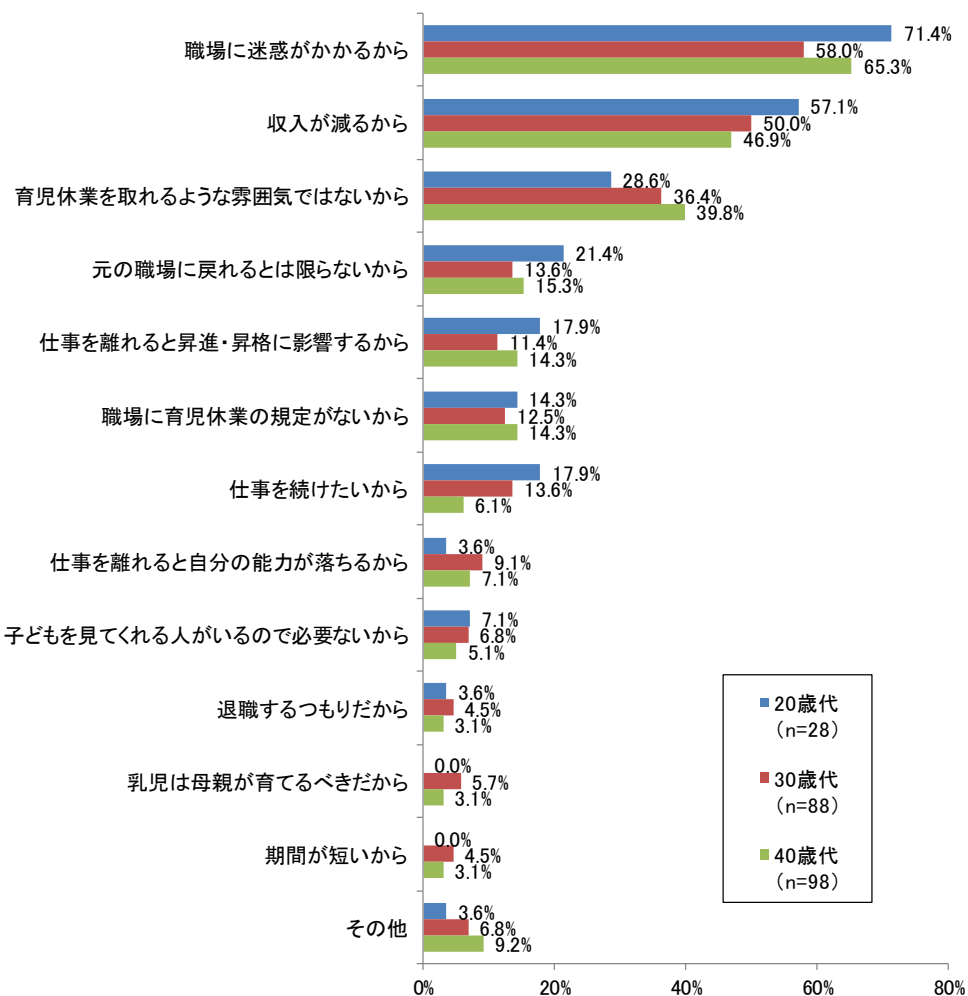
<過去調査との比較>



<性別>



<年代別>



<二次医療圏別> (参考)

	宮崎県北部 (n=35)	日向入郷 (n=23)	宮崎東諸県 (n=81)	西都児湯 (n=17)	日南串間 (n=9)	都城北諸県 (n=29)	西諸 (n=8)
職場に迷惑がかかるから	45.7%	65.2%	64.2%	64.7%	55.6%	82.8%	62.5%
収入が減るから	51.4%	47.8%	51.9%	58.8%	55.6%	48.3%	25.0%
育児休業を取れるような雰囲気ではないから	37.1%	8.7%	35.8%	29.4%	44.4%	51.7%	37.5%
元の職場に戻れるとは限らないから	2.9%	17.4%	21.0%	5.9%	33.3%	13.8%	0.0%
仕事を離れると昇進・昇格に影響するから	20.0%	8.7%	17.3%	5.9%	11.1%	6.9%	0.0%
職場に育児休業の規定がないから	20.0%	8.7%	13.6%	0.0%	11.1%	13.8%	0.0%
仕事を続けたいから	20.0%	8.7%	11.1%	11.8%	11.1%	3.4%	12.5%
仕事を離れると自分の能力が落ちるから	8.6%	0.0%	6.2%	11.8%	0.0%	13.8%	12.5%
子どもを見てくれる人がいるので必要ないから	5.7%	0.0%	4.9%	23.5%	0.0%	10.3%	0.0%
退職するつもりだから	2.9%	4.3%	2.5%	5.9%	0.0%	6.9%	0.0%
乳児は母親が育てるべきだから	2.9%	8.7%	2.5%	5.9%	0.0%	6.9%	0.0%
期間が短いから	8.6%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%
その他	5.7%	21.7%	3.7%	17.6%	11.1%	0.0%	25.0%

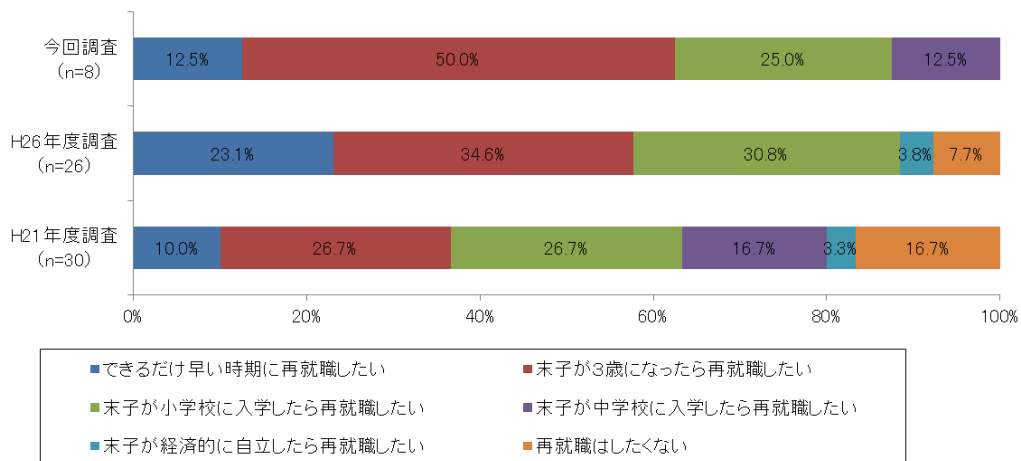


(2) (1)で選択肢「退職するつもりだから」を選ばれた方におうかがいします。

あなたは、退職後、再就職を希望しますか。(〇は1つ)

※回答数が少ないため、分析は行わない。

<過去調査との比較>



## 問21 あなたは、男性も育児休業を取得できることを知っていますか。(〇は1つ)

「知っていた」が92.6%、「知らなかった」が7.4%となっている。

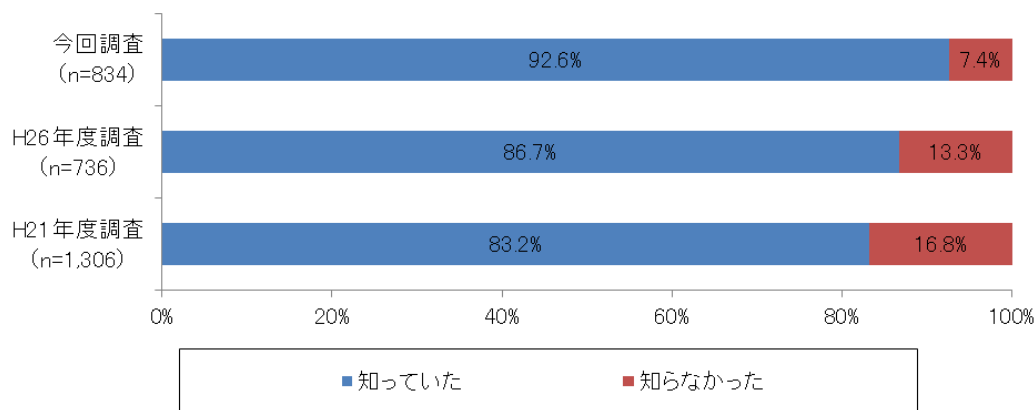
過去調査との比較では、男性も育児休業を取得できることの認知度は高まる傾向を示している。

性別では、男性の「知っていた」は88.4%で女性(94.4%)を6.0ポイント下回っており、男性は女性よりも認知度が低いことがうかがえる。

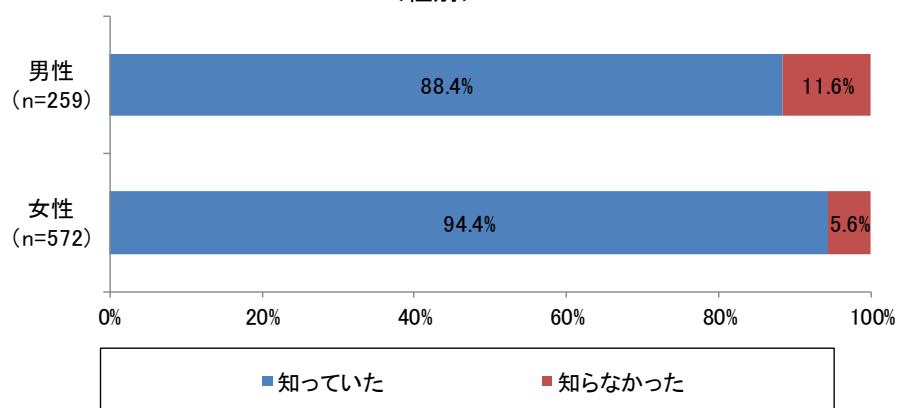
年代別では、いずれの年代も「知っていた」の割合が高いものの、20歳代は「知っていた」の割合が87.0%で30歳代と40歳代よりも認知度は低い状況にある。

二次医療圏別では、いずれの圏域も「知っていた」が9割を超えている。

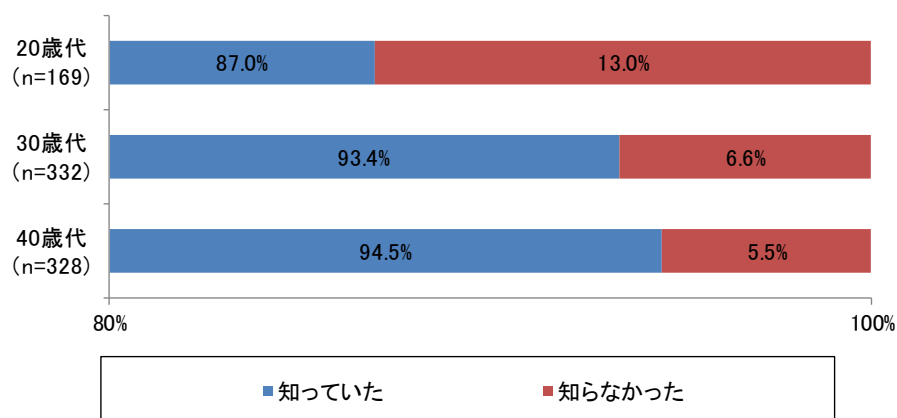
### <過去調査との比較>



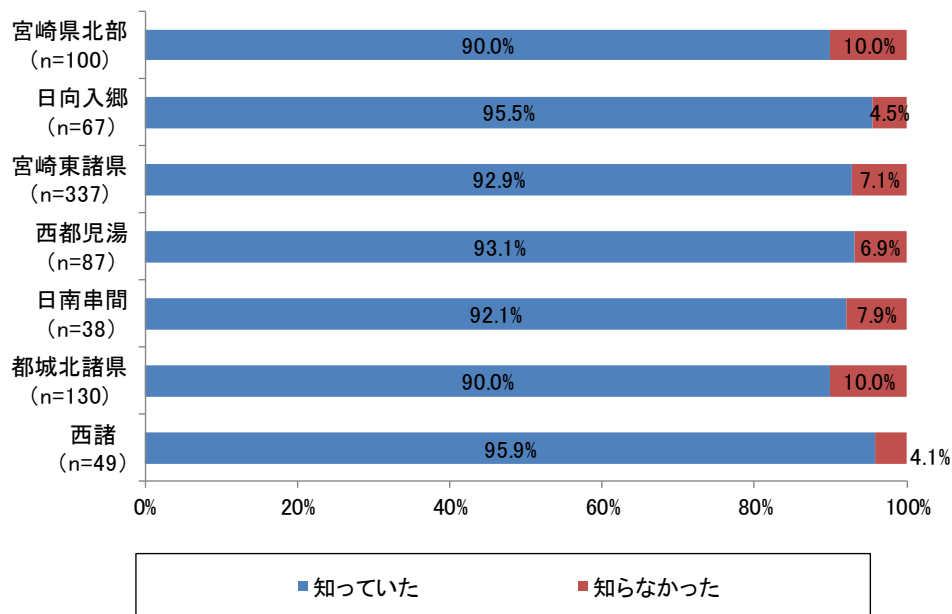
### <性別>



<年代別>



<二次医療圏別>



問22 あなたは、男性が育児休業を取得することをどう思いますか。(○は1つ)

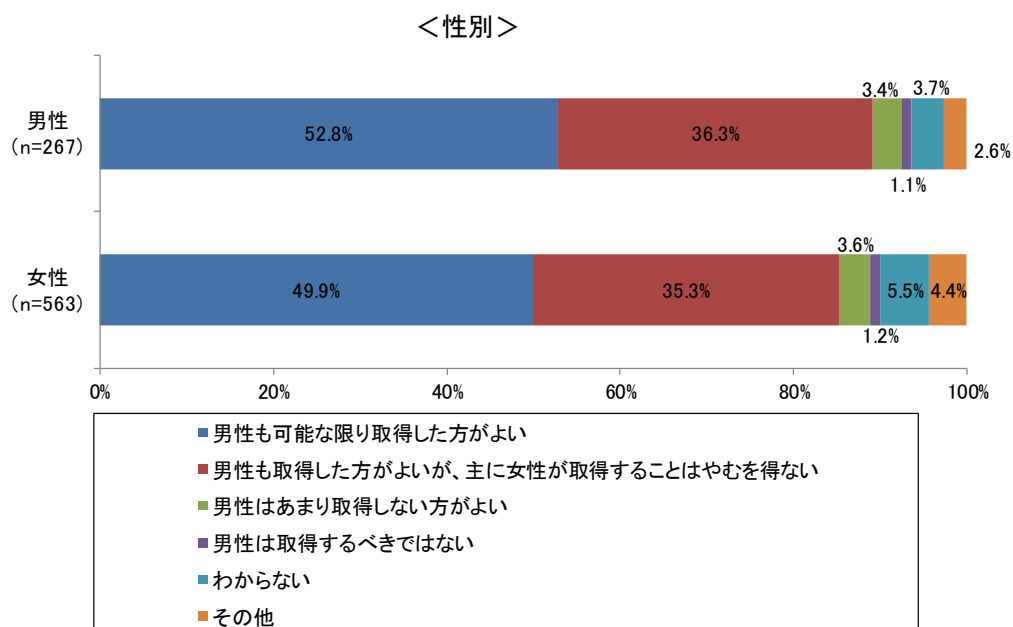
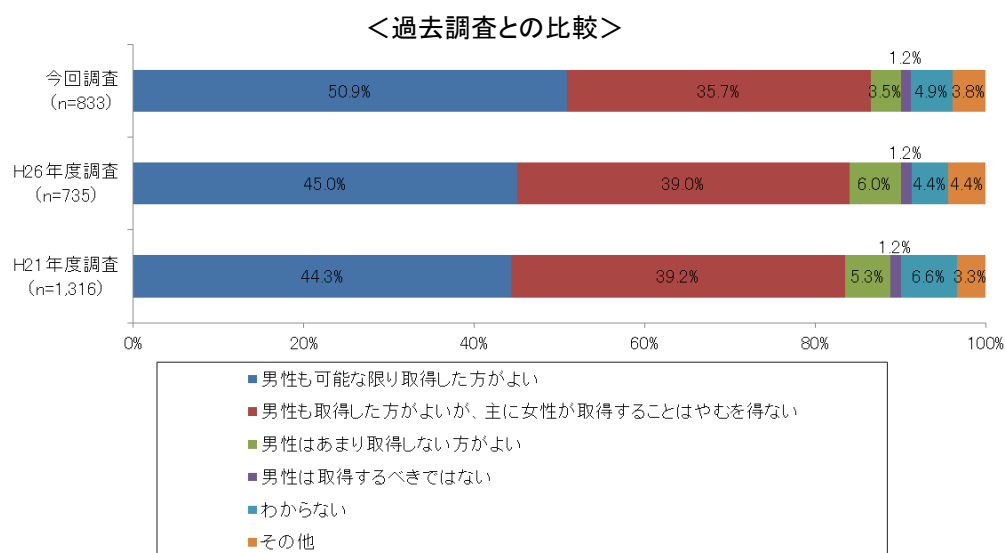
「男性も可能な限り取得した方がよい」の割合(50.9%)が最も高く、「男性も取得した方がよいが、主に女性が取得することはやむを得ない」が35.7%となっている。

過去調査との比較では、概ね同様の傾向にあるが、「男性も可能な限り取得した方がよい」の割合は高まる傾向を示している。

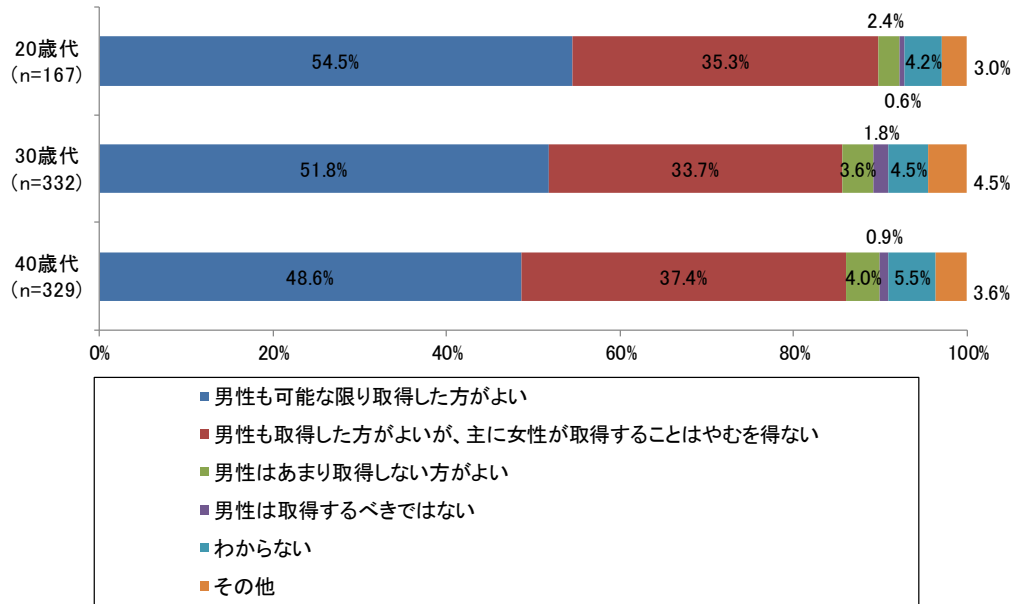
性別では、男女ともに概ね同様の傾向にある。

年代別では、いずれの年代も概ね同様の傾向にあるが、「男性も可能な限り取得した方がよい」は、年代が上がるとうずかに低くなる傾向にある。

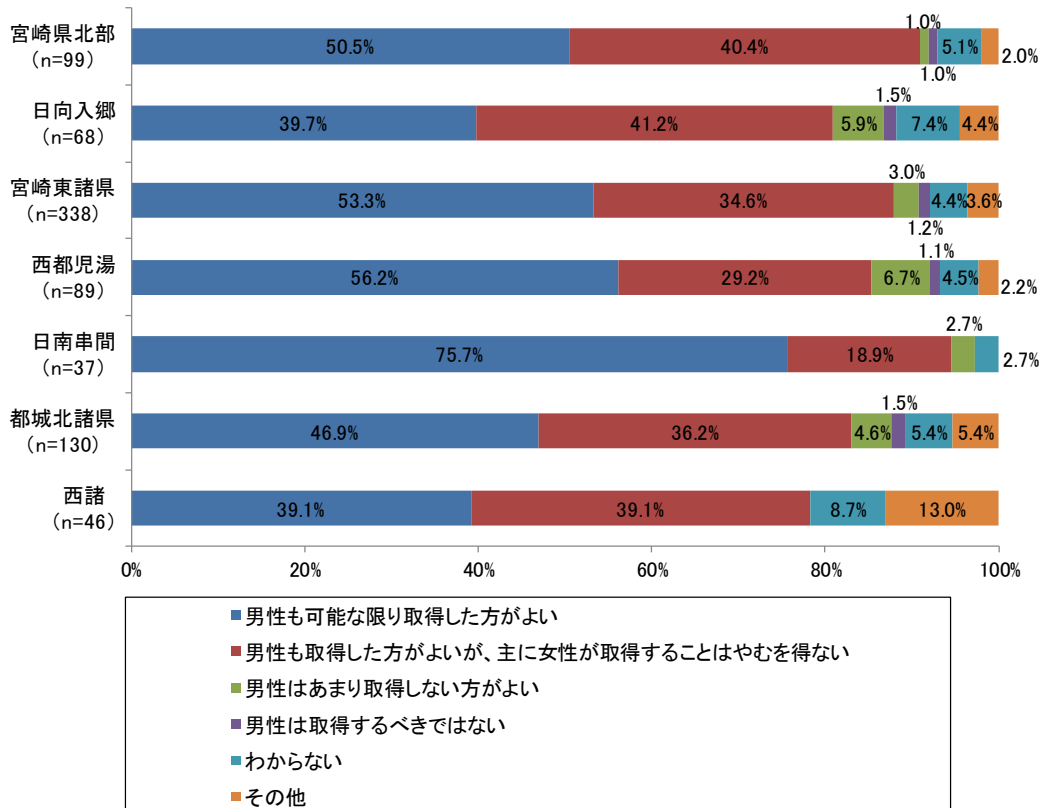
二次医療圏別では、日南串間で、「男性も可能な限り取得した方がよい」の割合が75.7%であり、他の圏域よりも顕著に高くなっている。



<年代別>



<二次医療圏別>



8. 問23～問32については、子どもをお持ちの方のみお答えください。既に子どもが就学中の方は、就学前当時のことについてお答えください。

問23 あなたは、子どもを保育所・幼稚園・認定こども園へ通わせていますか(通わせていましたか)。

2人以上の子どもをお持ちの方は、最年少の子どもについてお答えください。(○は1つ)

「1 認可保育所(市町村を経由して入所決定される保育所、へき地保育所を含む)に通っている(通っていた)」の割合が62.5%で最も高く、「3 公立又は私立の幼稚園に通っている(通っていた)」の割合が次に高く、22.2%となっている。

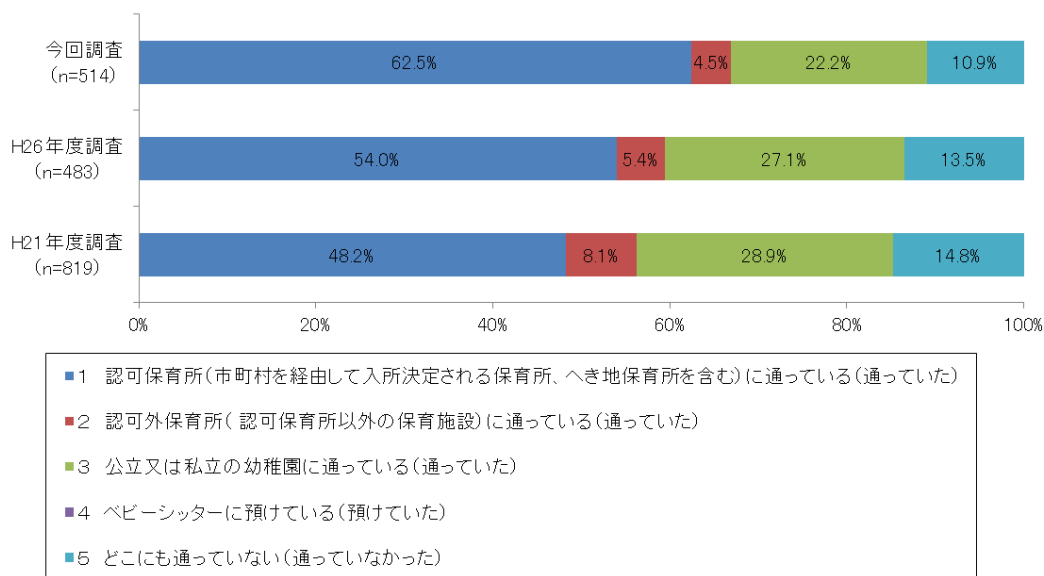
過去調査との比較では、「1 認可保育所(市町村を経由して入所決定される保育所、へき地保育所を含む)に通っている(通っていた)」の割合は増加傾向にあり、反対に「3 公立又は私立の幼稚園に通っている(通っていた)」の割合は減少傾向にある。

性別では、男女とも概ね同様の傾向にある。

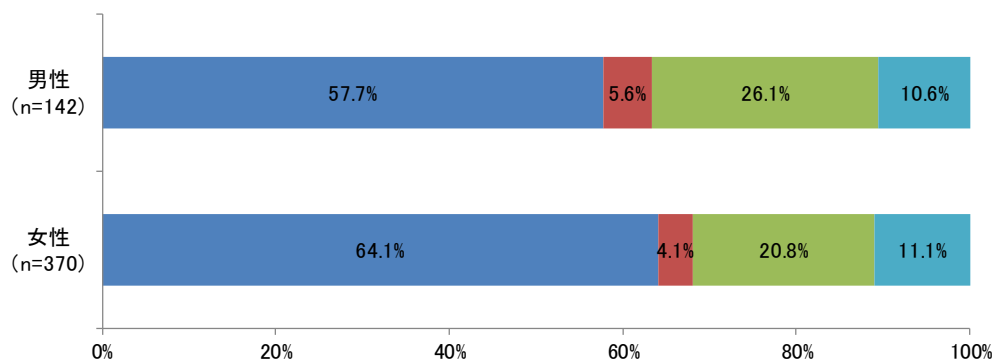
年代別では、20歳代は「5 どこにも通っていない(通っていなかった)」が30.0%であり、30歳代は16.8%、40歳代は2.4%で年代が高くなるにつれてその割合は低い状況にある。

二次医療圏別では、全体と概ね同様の傾向となっているが、日南串間と西諸では、「3 公立又は私立の幼稚園に通っている(通っていた)」の割合が他の圏域よりも高い状況にある。

<過去調査との比較>

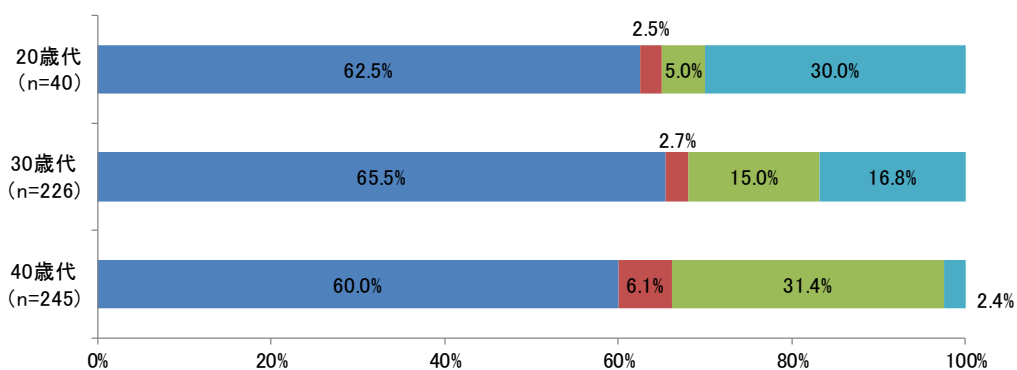


<性別>



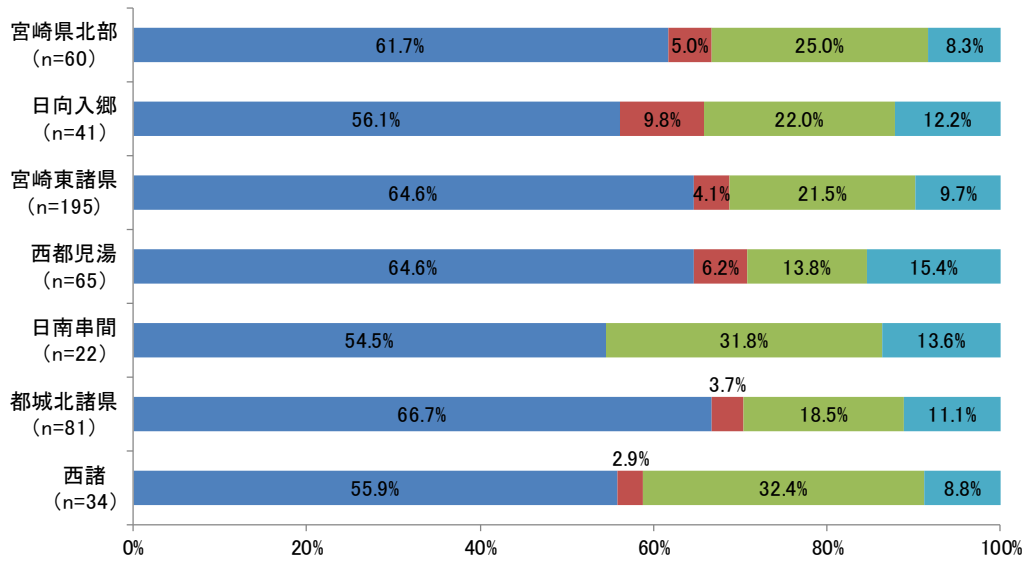
- 1 認可保育所(市町村を経由して入所決定される保育所、へき地保育所を含む)に通っている(通っていた)
- 2 認可外保育所(認可保育所以外の保育施設)に通っている(通っていた)
- 3 公立又は私立の幼稚園に通っている(通っていた)
- 4 ベビーシッターに預けている(預けていた)
- 5 どこにも通っていない(通っていなかった)

<年代別>



- 1 認可保育所(市町村を経由して入所決定される保育所、へき地保育所を含む)に通っている(通っていた)
- 2 認可外保育所(認可保育所以外の保育施設)に通っている(通っていた)
- 3 公立又は私立の幼稚園に通っている(通っていた)
- 4 ベビーシッターに預けている(預けていた)
- 5 どこにも通っていない(通っていなかった)

<二次医療圏別>



- 1 認可保育所(市町村を経由して入所決定される保育所、へき地保育所を含む)に通っている(通っていた)
- 2 認可外保育所(認可保育所以外の保育施設)に通っている(通っていた)
- 3 公立又は私立の幼稚園に通っている(通っていた)
- 4 ベビーシッターに預けている(預けていた)
- 5 どこにも通っていない(通っていなかった)



問24 問23で選択肢「1 認可保育所に通っている(通っていた)」又は「2 認可外保育施設に通っている(通っていた)」を選ばれた方におうかがいします。

子どもが通っている(通っていた)保育所・保育施設に期待することは何ですか。(3つまで○)

第1位「保育料を安くしてほしい」(40.7%)、第2位「病気のときも預かってほしい」(29.9%)、第3位「土曜・日曜・祝日等も預かってほしい」(25.9%)となっている。

過去調査との比較では、上位の項目は概ね同様の傾向を示している。その中で今回は、「保育料を安くしてほしい」が20ポイント以上下回っている。

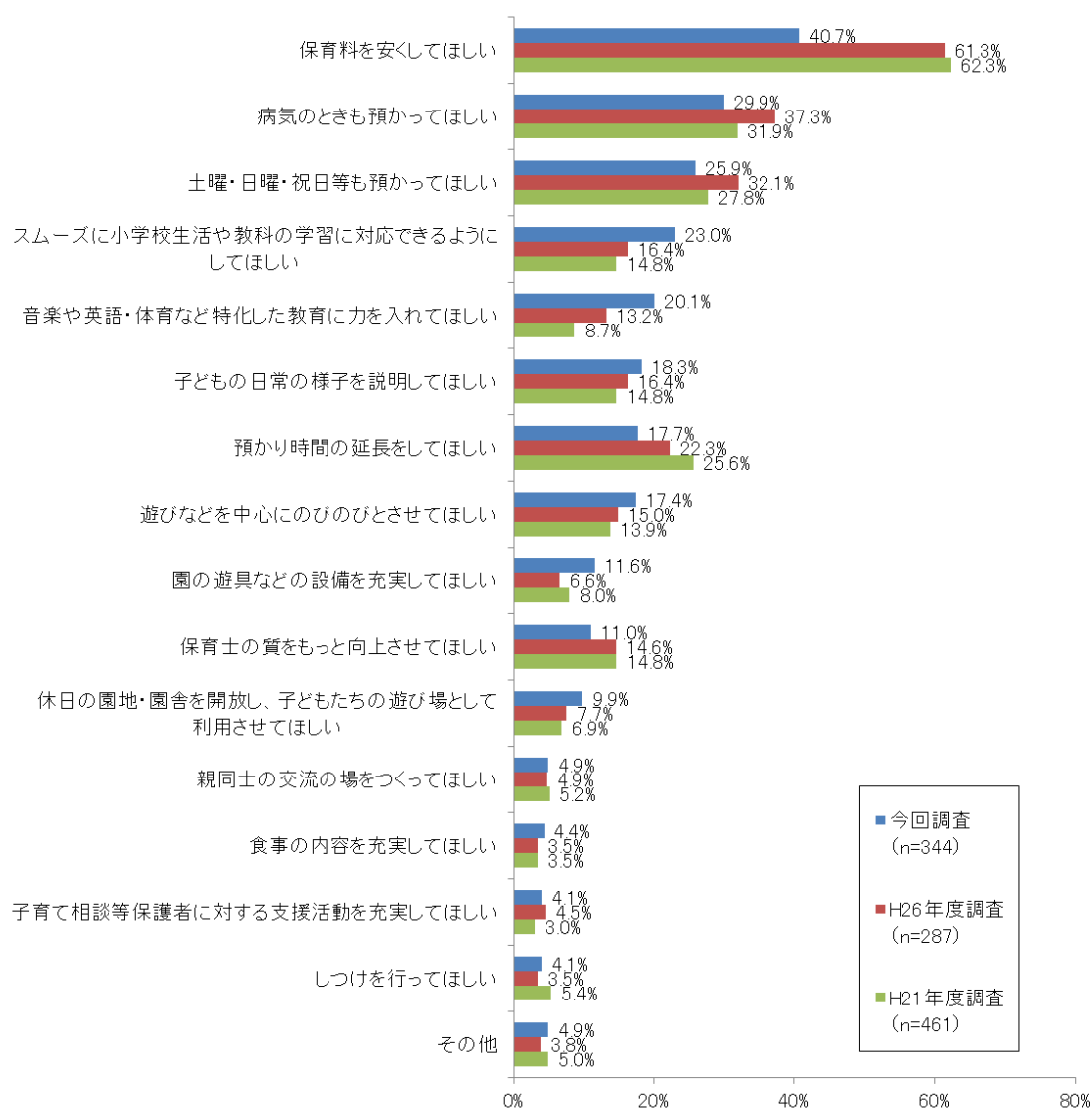
なお、第4位「スムーズに小学校生活や教科の学習に対応できるようにしてほしい」(23.0%)、第5位「音楽や英語・体育など特化した教育に力を入れてほしい」(20.1%)の割合は増加傾向を示している。

性別では、男女とも全体と概ね同様の傾向を示している。その中で「保育料を安くしてほしい」(男性:50.0%、女性:37.7%)と「預かり時間の延長をしてほしい」(男性:24.4%、女性:15.5%)の割合は男性が女性を上回っている。

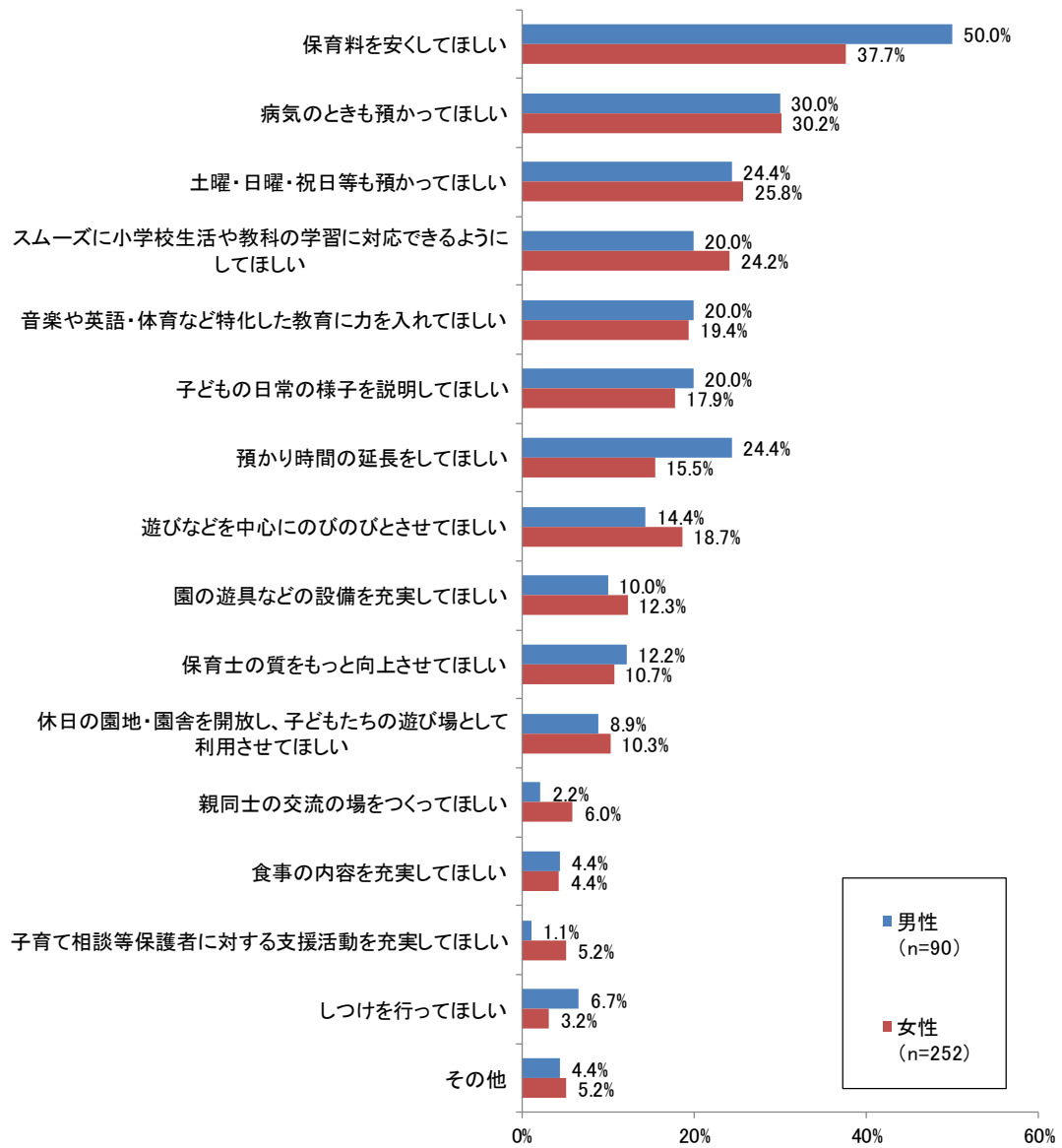
年代別では、いずれの年代も全体と概ね同様の傾向を示しているが、40歳代では「預かり時間の延長をしてほしい」(26.5%)の割合が第4位となっている。

二次医療圏別では回答数が少ない圏域もあるが、全体の上位3位を除いて割合が高い項目をみると、日向入郷は「預かり時間の延長をしてほしい」(29.6%)、西都児湯は「スムーズに小学校生活や教科の学習に対応できるようにしてほしい」と「子どもの日常の様子を説明してほしい」(ともに26.1%)、日南串間は「遊びなどを中心にのびのびとさせてほしい」(41.7%)、「音楽や英語・体育など特化した教育に力を入れてほしい」(33.3%)、都城北諸県は「遊びなどを中心にのびのびとさせてほしい」(24.6%)、西諸は「園の遊具などの設備を充実してほしい」(35.0%)などとなっている。

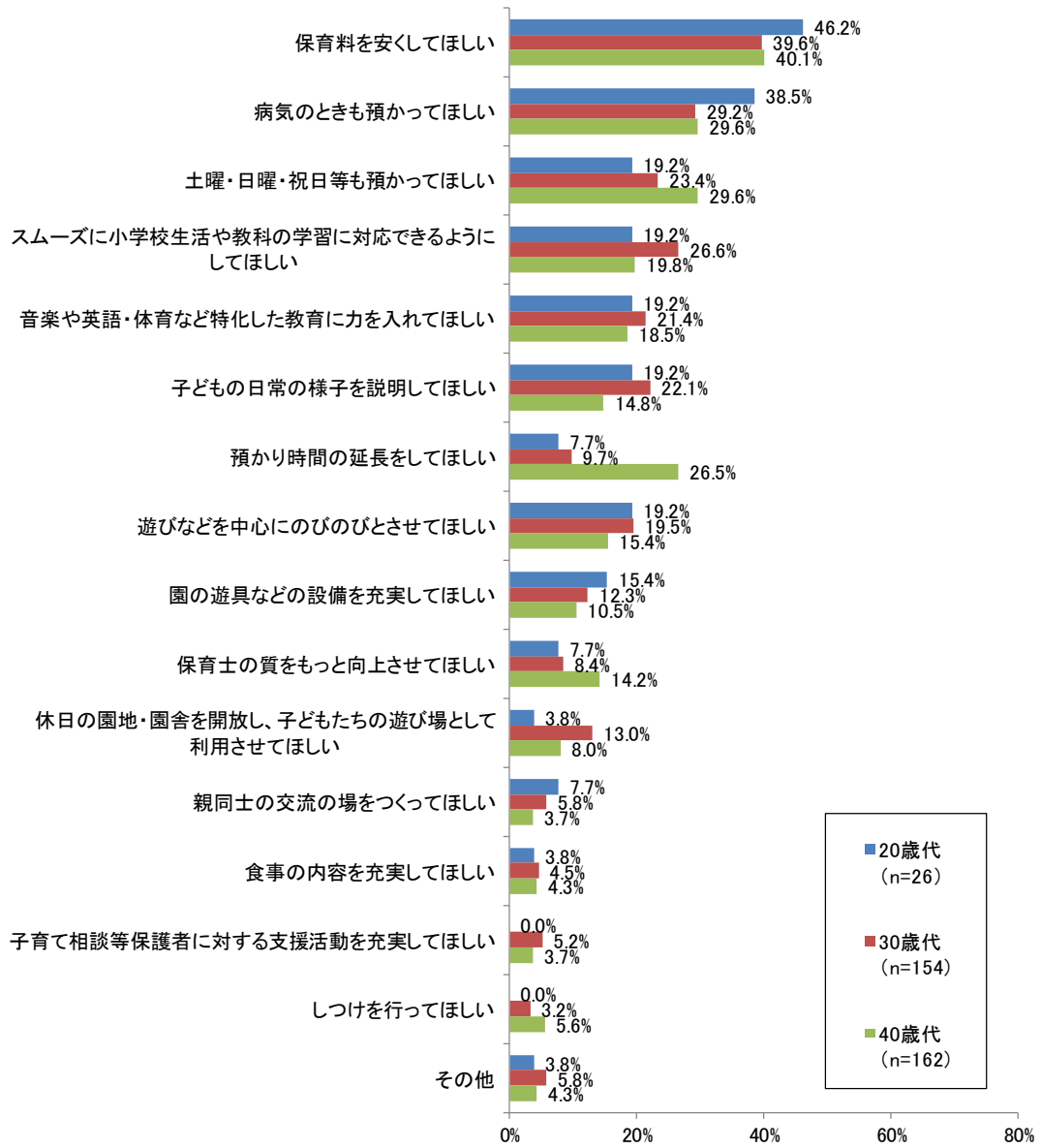
<過去調査との比較>



<性別>



<年代別>



＜二次医療圏別＞

	宮崎県北部 (n=40)	日向入郷 (n=27)	宮崎東諸県 (n=134)	西都児湯 (n=46)	日南串間 (n=12)	都城北諸県 (n=57)	西諸 (n=20)
保育料を安くしてほしい	45.0%	44.4%	41.0%	41.3%	16.7%	47.4%	20.0%
病気のときも預かってほしい	30.0%	18.5%	33.6%	34.8%	25.0%	29.8%	15.0%
土曜・日曜・祝日等も預かってほしい	35.0%	37.0%	27.6%	15.2%	25.0%	19.3%	20.0%
スムーズに小学校生活や教科の学習に対応できるようにしてほしい	17.5%	7.4%	23.1%	26.1%	58.3%	22.8%	30.0%
音楽や英語・体育など特化した教育に力を入れてほしい	15.0%	18.5%	24.6%	19.6%	33.3%	15.8%	15.0%
子どもの日常の様子を説明してほしい	15.0%	11.1%	21.6%	26.1%	8.3%	12.3%	10.0%
預かり時間の延長をしてほしい	27.5%	29.6%	19.4%	15.2%	0.0%	7.0%	10.0%
遊びなどを中心にのびのびとさせてほしい	12.5%	7.4%	15.7%	15.2%	41.7%	24.6%	15.0%
園の遊具などの設備を充実してほしい	10.0%	22.2%	6.0%	15.2%	0.0%	14.0%	35.0%
保育士の質をもっと向上させてほしい	10.0%	18.5%	8.2%	4.3%	8.3%	15.8%	15.0%
休日の園地・園舎を開放し、子どもたちの遊び場として利用させてほしい	15.0%	7.4%	7.5%	10.9%	25.0%	7.0%	20.0%
親同士の交流の場をつくってほしい	5.0%	3.7%	3.7%	6.5%	8.3%	5.3%	10.0%
食事の内容を充実してほしい	0.0%	0.0%	5.2%	6.5%	8.3%	7.0%	0.0%
子育て相談等保護者に対する支援活動を充実してほしい	2.5%	7.4%	3.0%	6.5%	0.0%	7.0%	0.0%
しつけを行ってほしい	2.5%	3.7%	5.2%	4.3%	8.3%	1.8%	5.0%
その他	5.0%	18.5%	3.7%	2.2%	0.0%	3.5%	10.0%

問25 問23で選択肢「3 公立又は私立の幼稚園に通っている(通っていた)」を選ばれた方におうかがいします。

子どもが通っている(通っていた)幼稚園に期待することは何ですか。(3つまで○)

※回答数が少ないので、分析は難しいことに留意する必要があります。

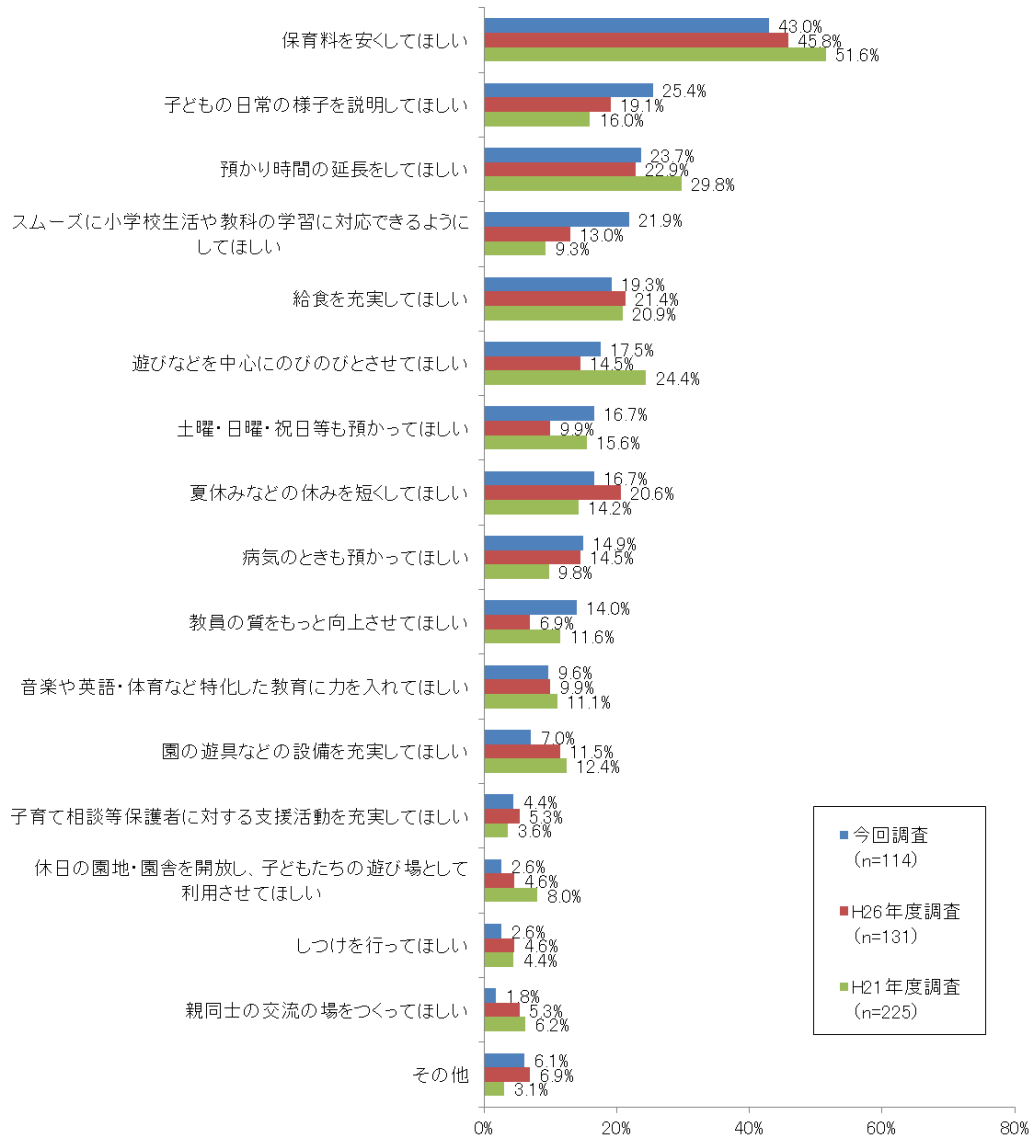
第1位「保育料を安くしてほしい」(43.0%)、第2位「子どもの日常の様子を説明してほしい」(25.4%)、第3位「預かり時間の延長をしてほしい」(23.7%)となっている。

過去調査との比較では、第1位の「保育料を安くしてほしい」の割合は減少傾向を示している。一方、「子どもの日常の様子を説明してほしい」、「スムーズに小学校生活や教科の学習に対応できるようにしてほしい」の割合は増加傾向を示している。

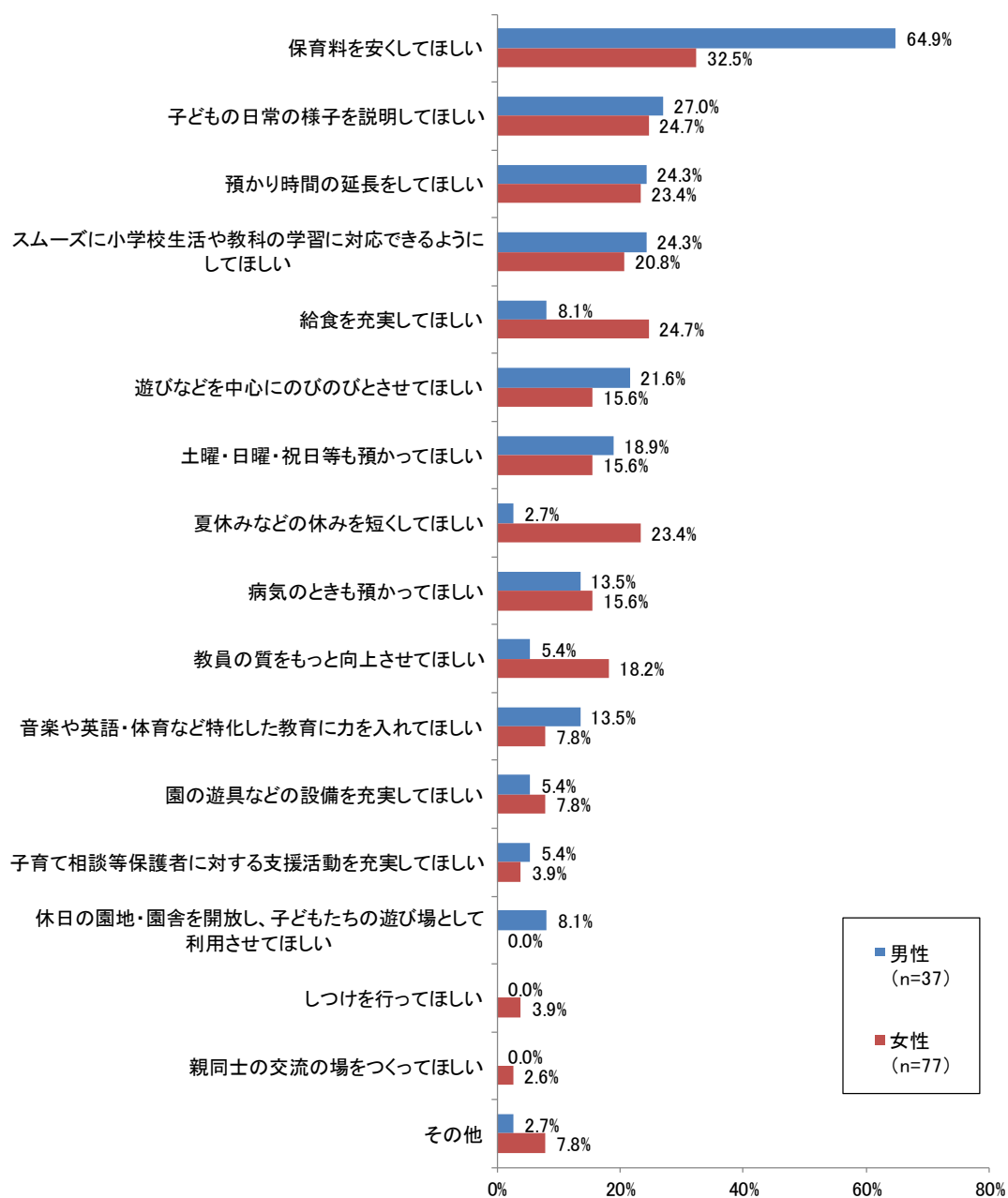
性別では、「保育料を安くしてほしい」(男性:64.9%、女性:32.5%)は男性が女性を32.4ポイント上回っているのが特徴的である。

※年代別と二次医療圏別は回答数が少ないため、分析は行わない。

<過去調査との比較>

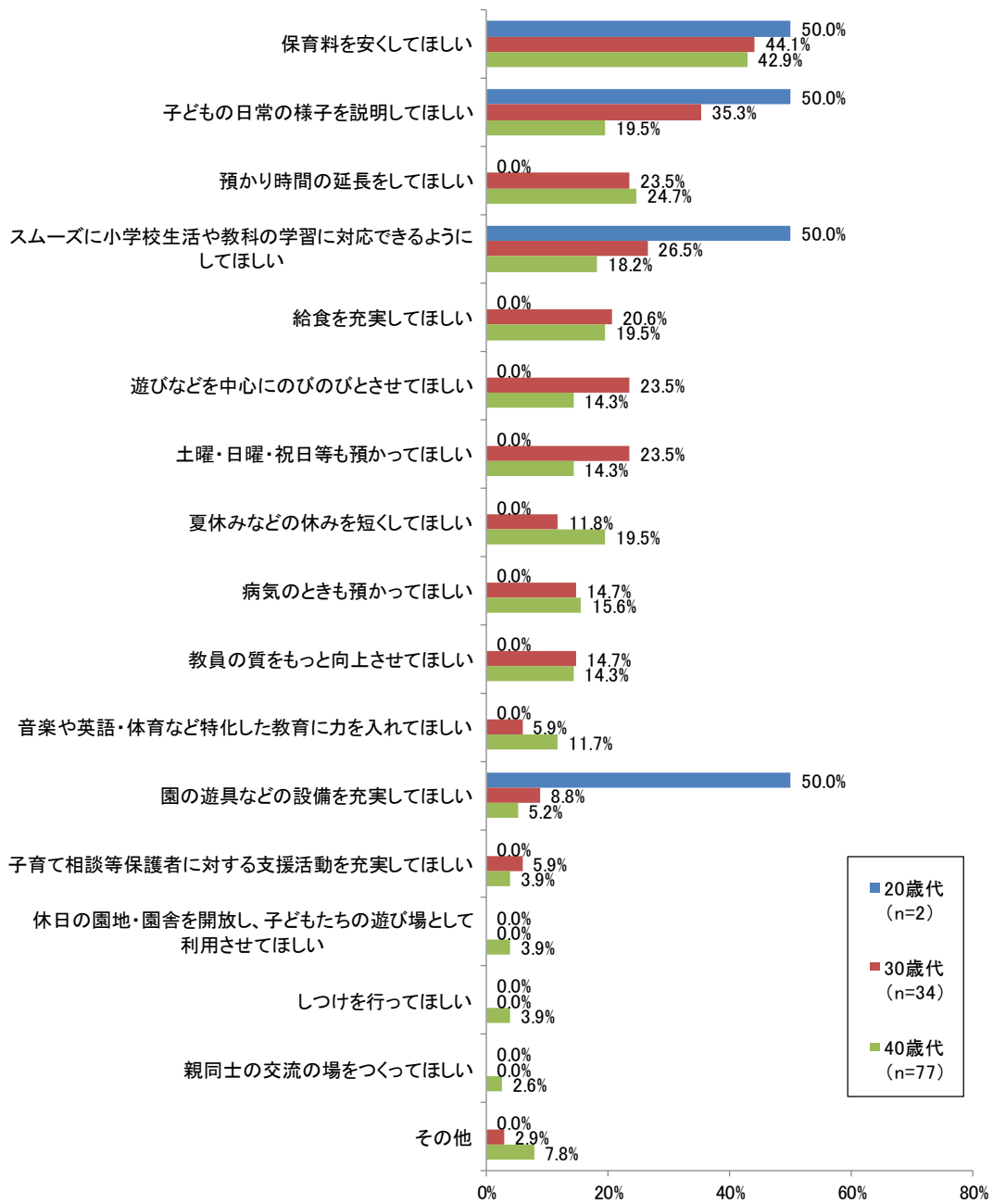


<性別>





<年代別> (参考)



＜二次医療圏別＞（参考）

	宮崎県北部 (n=15)	日向入郷 (n=9)	宮崎東諸県 (n=42)	西都児湯 (n=9)	日南串間 (n=7)	都城北諸県 (n=15)	西諸 (n=11)
保育料を安くしてほしい	60.0%	33.3%	47.6%	33.3%	57.1%	40.0%	18.2%
子どもの日常の様子を説明してほしい	46.7%	11.1%	21.4%	22.2%	42.9%	20.0%	9.1%
預かり時間の延長をしてほしい	20.0%	55.6%	28.6%	33.3%	0.0%	6.7%	18.2%
スムーズに小学校生活や教科の学習に対応できるようにしてほしい	26.7%	22.2%	21.4%	0.0%	42.9%	26.7%	9.1%
給食を充実してほしい	20.0%	11.1%	26.2%	11.1%	0.0%	33.3%	9.1%
遊びなどを中心にのびのびとさせてほしい	33.3%	11.1%	11.9%	11.1%	42.9%	20.0%	9.1%
土曜・日曜・祝日等も預かってほしい	13.3%	33.3%	14.3%	22.2%	14.3%	0.0%	36.4%
夏休みなどの休みを短くしてほしい	0.0%	11.1%	16.7%	11.1%	28.6%	13.3%	36.4%
病気のときも預かってほしい	6.7%	22.2%	16.7%	22.2%	14.3%	6.7%	27.3%
教員の質をもっと向上させてほしい	13.3%	11.1%	14.3%	11.1%	14.3%	20.0%	18.2%
音楽や英語・体育など特化した教育に力を入れてほしい	13.3%	22.2%	7.1%	0.0%	0.0%	13.3%	9.1%
園の遊具などの設備を充実してほしい	13.3%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%
子育て相談等保護者に対する支援活動を充実してほしい	20.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	6.7%	0.0%
休日の園地・園舎を開放し、子どもたちの遊び場として利用させてほしい	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
しつけを行ってほしい	0.0%	11.1%	2.4%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
親同士の交流の場をつくってほしい	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
その他	0.0%	11.1%	2.4%	11.1%	0.0%	13.3%	18.2%

問26 問23で選択肢「5 どこにも通っていない(通っていなかった)」を選ばれた方におうかがいします。

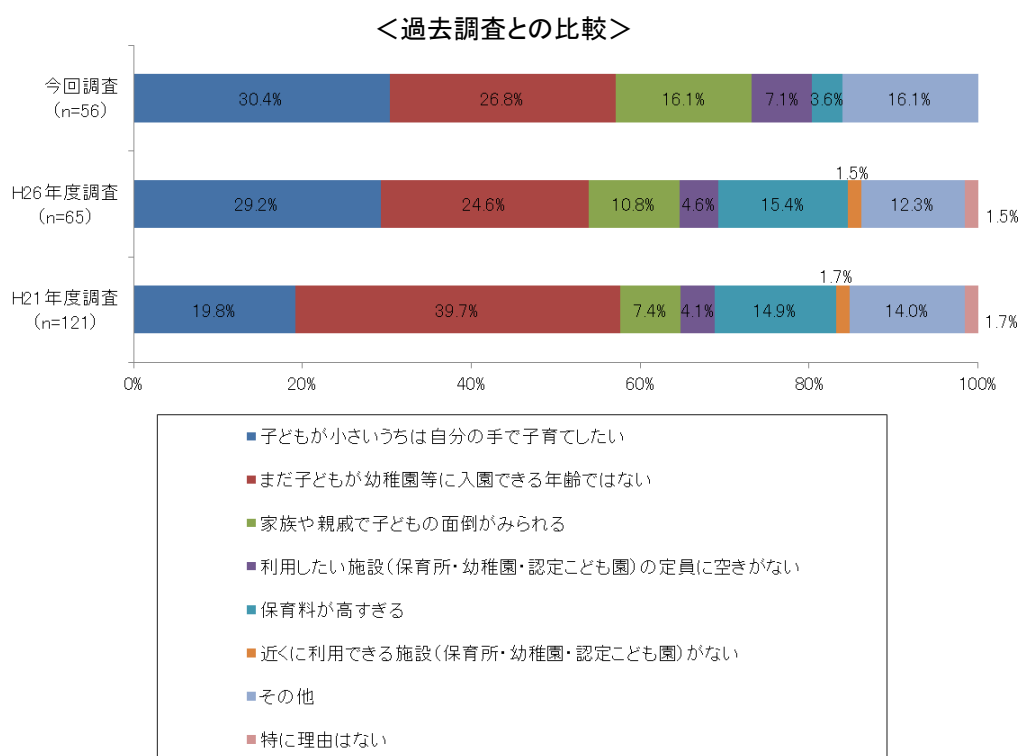
(1) どこにも通っていない(通っていなかった)のはなぜですか。(〇は1つ)

※回答数が少ないので、分析は難しいことに留意する必要がある。

「子どもが小さいうちは自分の手で子育てしたい」の割合が30.4%で最も高く、「まだ子どもが幼稚園等に入園できる年齢ではない」が26.8%で次いでいる。

過去調査との比較では、「子どもが小さいうちは自分の手で子育てしたい」の割合が増加傾向を示している。

※回答数が少ないため、クロス集計の分析は行わない。



## (2) 家庭で子育てする上で何か充実してほしいことはありますか。(2つまで○)

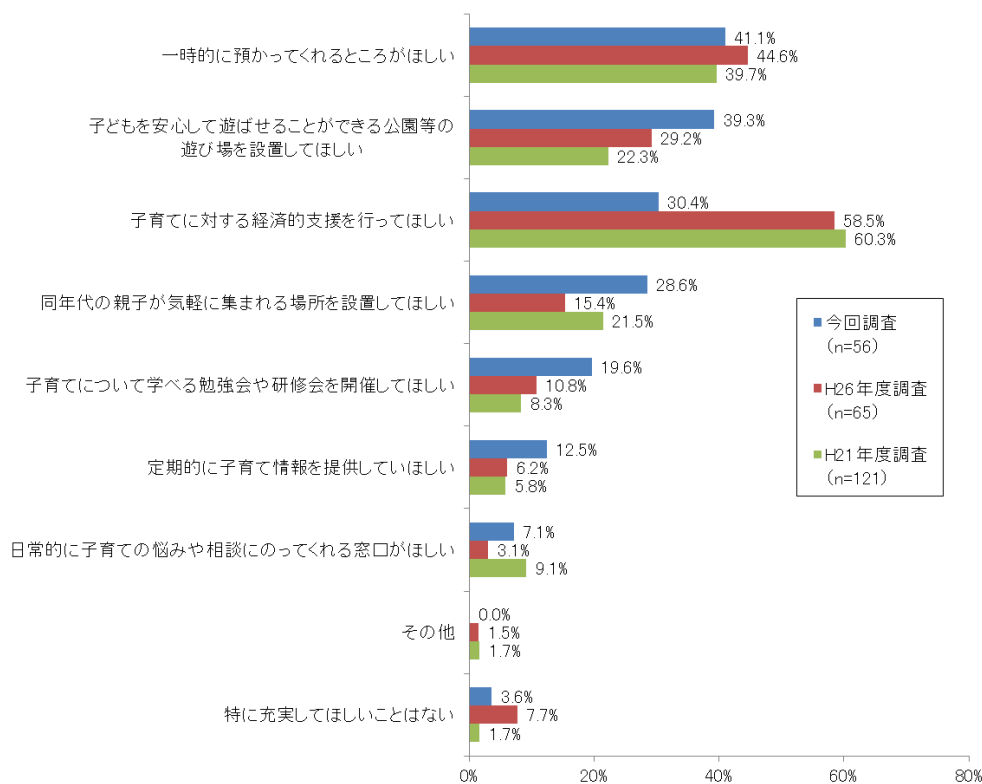
※回答数が少ないので、分析は難しいことに留意する必要がある。

第1位「一時的に預かってくれるところがほしい」(41.1%)、第2位「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を設置してほしい」(39.3%)、第3位「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」(30.4%)となっている。

過去調査との比較では、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」の割合が今回は約30ポイント減少している。一方、「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を設置してほしい」「同年代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい」「子育てについて学べる勉強会や研修会を開催してほしい」といった項目の割合は増加している。

※回答数が少ないため、クロス集計の分析は行わない。

<過去調査との比較>



問27 あなたは、子育ての際に生じた不安や悩みを誰に相談していますか(相談していましたか)。(3つまで○)

第1位「配偶者」(72.3%)、第2位「自分の親」(64.7%)、第3位「友人・知人」(50.7%)となっている。

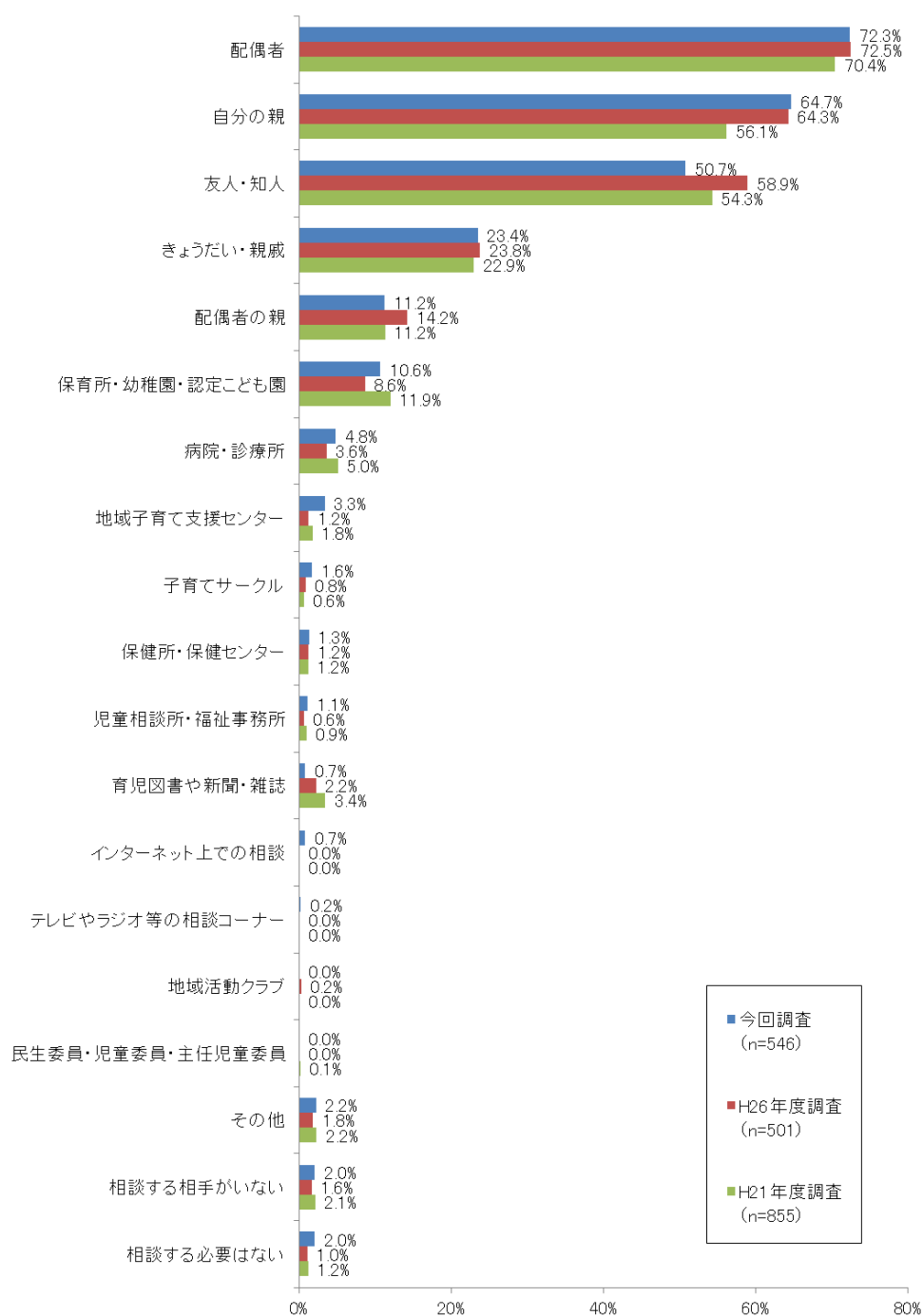
前回調査との比較では、概ね同様の傾向となっている。

性別では、上位の項目は男女とも全体と概ね同様の傾向にあるが、その中で女性は「自分の親」「友人・知人」に相談する割合が男性を大きく上回っている。

年代別では、上位の項目は全体と概ね同様の傾向となっている。

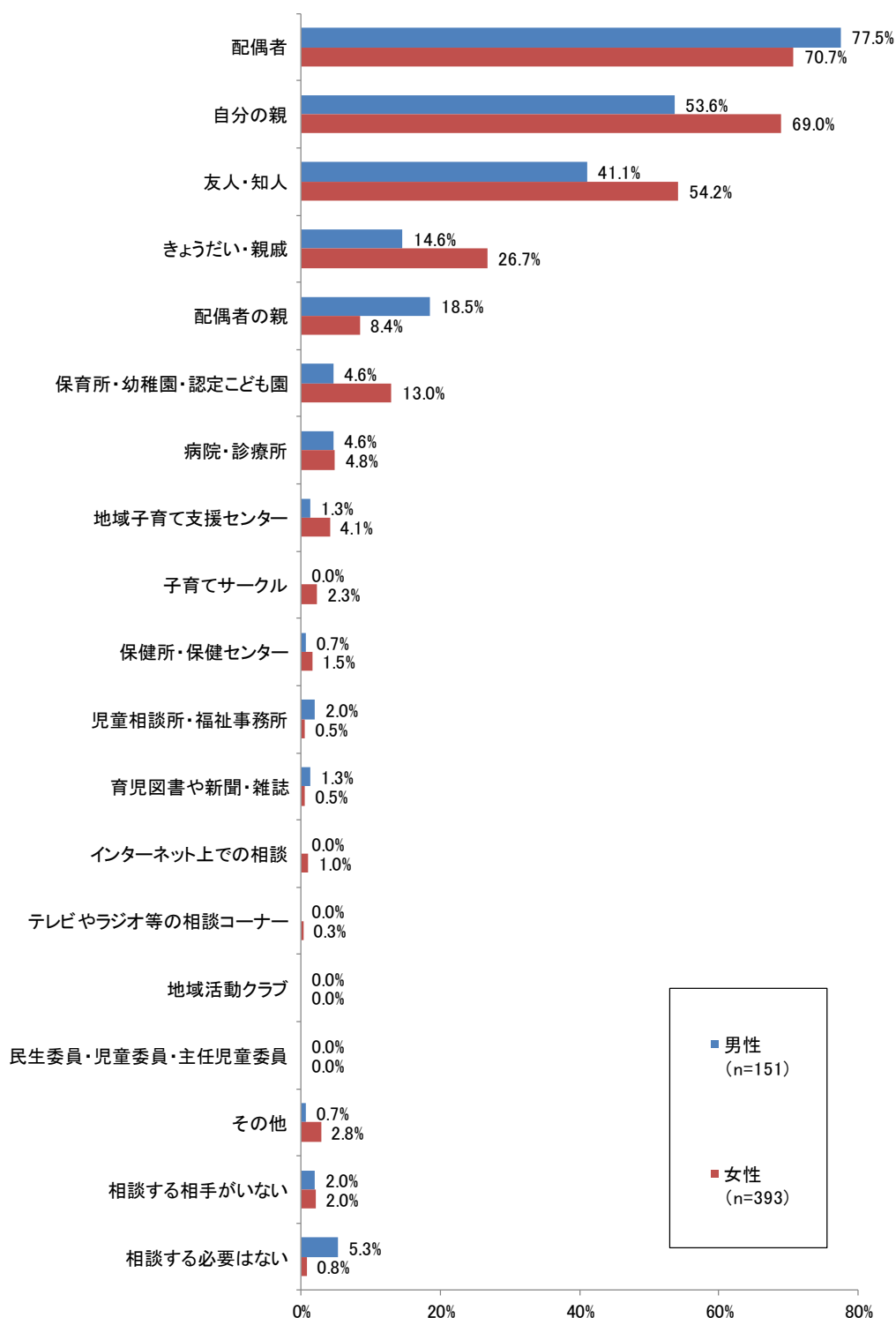
二次医療圏別では、上位の項目はいずれの圏域も全体とほぼ同様の傾向となっている。

<過去調査との比較>

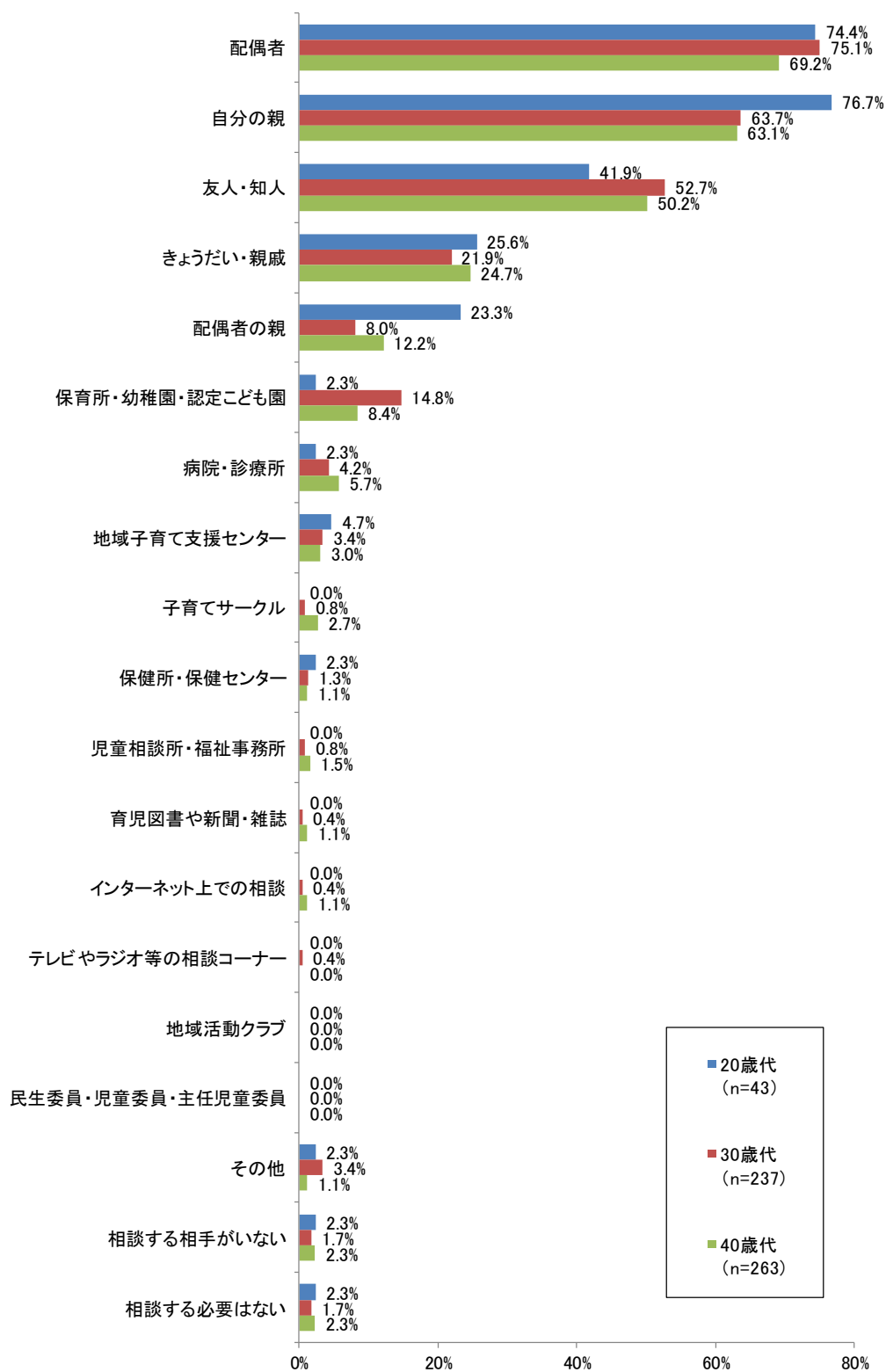


※「インターネット上での相談」は今回調査から追加した項目

<性別>



<年代別>





＜二次医療圏別＞

	宮崎県北部 (n=66)	日向入郷 (n=45)	宮崎東諸県 (n=210)	西都児湯 (n=66)	日南串間 (n=22)	都城北諸県 (n=85)	西諸 (n=35)
配偶者	68.2%	66.7%	73.3%	78.8%	72.7%	70.6%	71.4%
自分の親	72.7%	62.2%	65.2%	54.5%	72.7%	65.9%	65.7%
友人・知人	45.5%	57.8%	49.0%	53.0%	31.8%	55.3%	57.1%
きょうだい・親戚	15.2%	24.4%	26.2%	24.2%	13.6%	22.4%	25.7%
配偶者の親	15.2%	8.9%	9.0%	15.2%	9.1%	11.8%	8.6%
保育所・幼稚園・認定こども園	10.6%	11.1%	10.0%	7.6%	18.2%	16.5%	5.7%
病院・診療所	13.6%	0.0%	2.9%	7.6%	4.5%	3.5%	5.7%
地域子育て支援センター	1.5%	2.2%	1.0%	3.0%	13.6%	8.2%	2.9%
子育てサークル	3.0%	6.7%	0.5%	0.0%	9.1%	1.2%	0.0%
保健所・保健センター	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
児童相談所・福祉事務所	3.0%	2.2%	1.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%
育児図書や新聞・雑誌	1.5%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%
インターネット上での相談	1.5%	0.0%	0.5%	0.0%	4.5%	0.0%	2.9%
テレビやラジオ等の相談コーナー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%
地域活動クラブ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
民生委員・児童委員・主任児童委員	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	7.6%	2.2%	1.9%	1.5%	0.0%	1.2%	0.0%
相談する相手がいない	1.5%	0.0%	2.9%	3.0%	0.0%	0.0%	2.9%
相談する必要はない	0.0%	2.2%	2.4%	3.0%	9.1%	1.2%	0.0%

**問28 子どもと外出の際、困ることや困ったことはありますか。(3つまで○)**

第1位「小さな子どもの食事に配慮された場所がない」(30.6%)、第2位「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない」(30.2%)、第3位「トイレがおむつ替え親子での利用に配慮されていない」(26.0%)となっている。

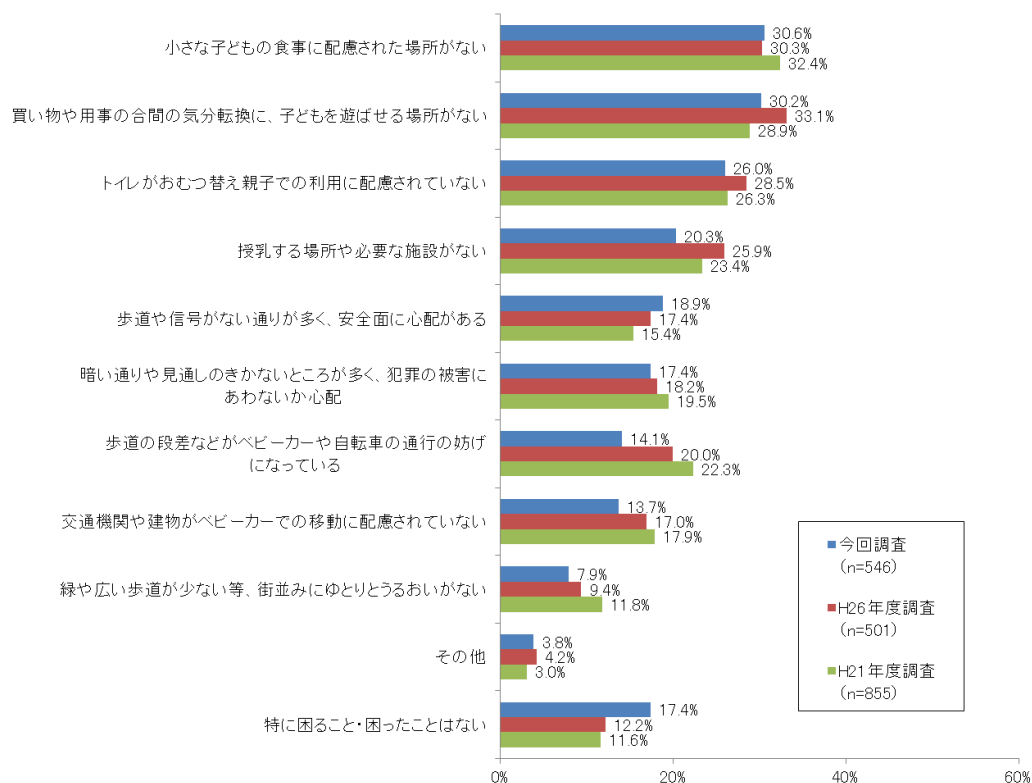
過去調査との比較では、項目の上位は概ね同様の傾向を示している。その中で「特に困ること・困ったことはない」は今回17.4%となっており、過去調査を5ポイント程度上回っている。

性別では、上位3項目については、いずれもその割合は女性が男性を上回っている。なお、第5位の「歩道や信号がない通りが多く、安全面に心配がある」の割合は男性が女性を上回っている。

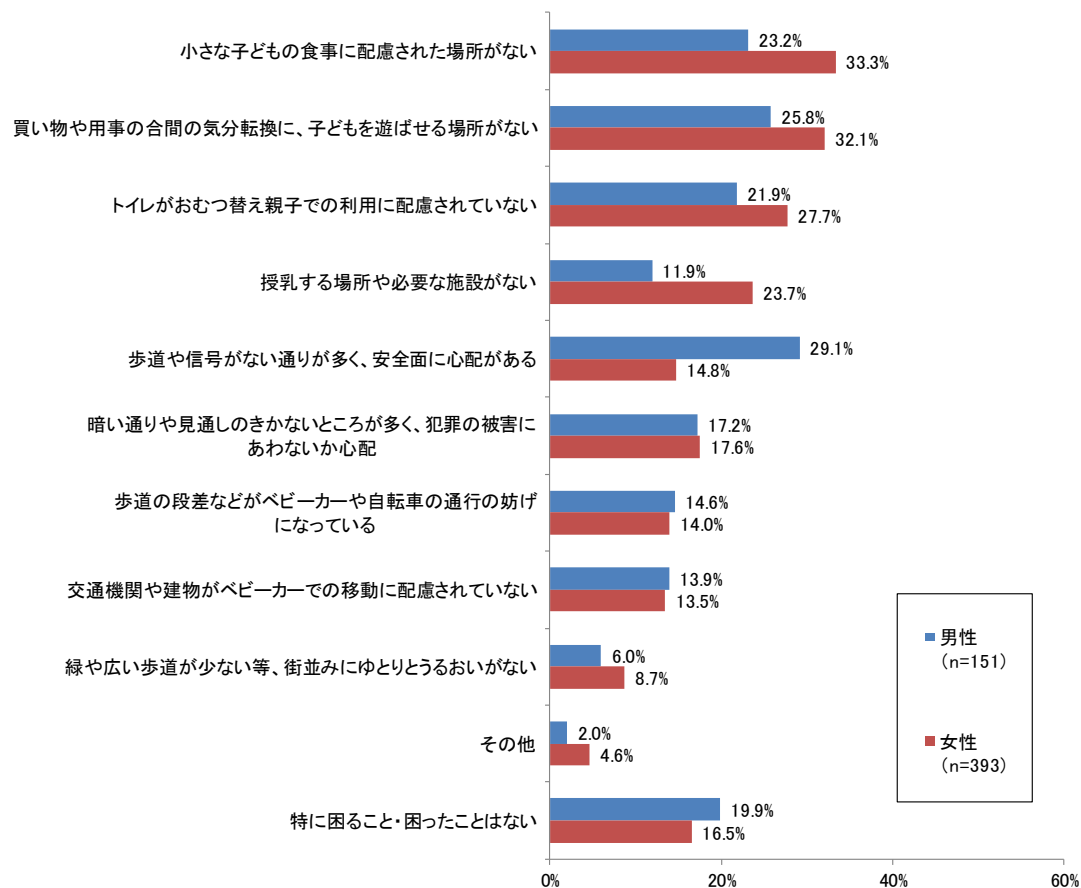
年代別では、20歳代は第1位「小さな子どもの食事に配慮された場所がない」、第2位「トイレがおむつ替え親子での利用に配慮されていない」、第3位「授乳する場所や必要な施設がない」の割合が高くなっており、全体と上位の順位が異なっている。「特に困ること・困ったことはない」の割合は年代が高いほど大きくなっている。

二次医療圏別では、上位項目は全体と概ね同様の傾向となっている。その中で宮崎東諸県では「歩道や信号がない通りが多く、安全面に心配がある」(21.4%)、西都児湯は「授乳する場所や必要な施設がない」(25.8%)、日南串間は「暗い通りや見通しのきかないところが多く、犯罪の被害にあわないか心配」(36.4%)が上位3位に入っている。

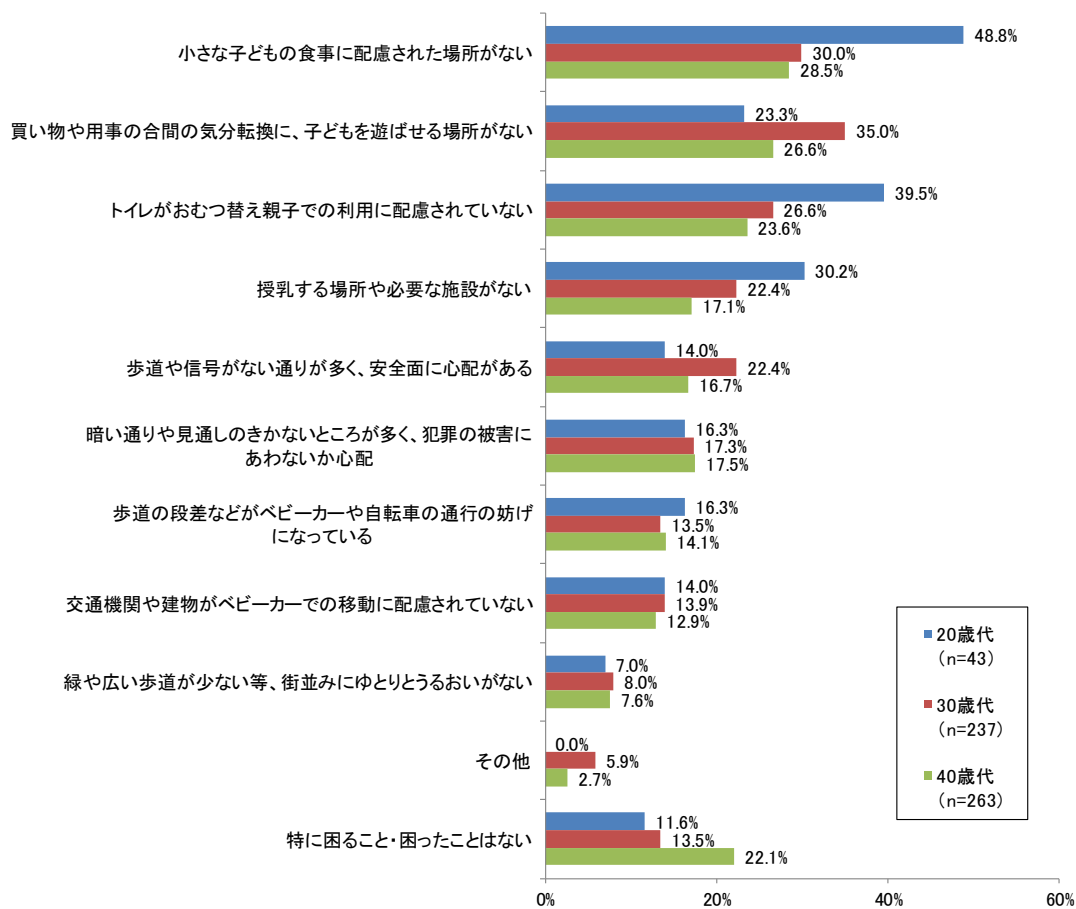
### <過去調査との比較>



<性別>



<年代別>



＜二次医療圏別＞

	宮崎県北部 (n=66)	日向入郷 (n=45)	宮崎東諸県 (n=210)	西都児湯 (n=66)	日南串間 (n=22)	都城北諸県 (n=85)	西諸 (n=35)
小さな子どもの食事に配慮された場所がない	36.4%	31.1%	22.9%	42.4%	31.8%	34.1%	34.3%
買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない	47.0%	33.3%	21.9%	25.8%	31.8%	32.9%	37.1%
トイレがおむつ替え親子での利用に配慮されていない	30.3%	26.7%	19.5%	37.9%	36.4%	20.0%	42.9%
授乳する場所や必要な施設がない	27.3%	24.4%	17.6%	25.8%	27.3%	12.9%	22.9%
歩道や信号がない通りが多く、安全面に心配がある	19.7%	8.9%	21.4%	24.2%	9.1%	14.1%	14.3%
暗い通りや見通しのきかないところが多く、犯罪の被害にあわないか心配	22.7%	8.9%	15.2%	19.7%	36.4%	18.8%	11.4%
歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっている	13.6%	11.1%	16.7%	7.6%	4.5%	15.3%	17.1%
交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない	7.6%	24.4%	16.7%	18.2%	18.2%	8.2%	0.0%
緑や広い歩道が少ない等、街並みにゆとりとるおいがない	6.1%	6.7%	7.1%	7.6%	9.1%	11.8%	5.7%
その他	3.0%	2.2%	5.2%	1.5%	4.5%	3.5%	2.9%
特に困ること・困ったことはない	6.1%	17.8%	24.3%	12.1%	9.1%	21.2%	11.4%

問29 あなたが急な用事等の場合に、子どもを預ける(預けた)ところはどこですか。

(あてはまるものすべてに○)

第1位「自分の親」(69.4%)、第2位「配偶者の親」(43.0%)、第3位「きょうだい・親戚」(21.4%)となっている。

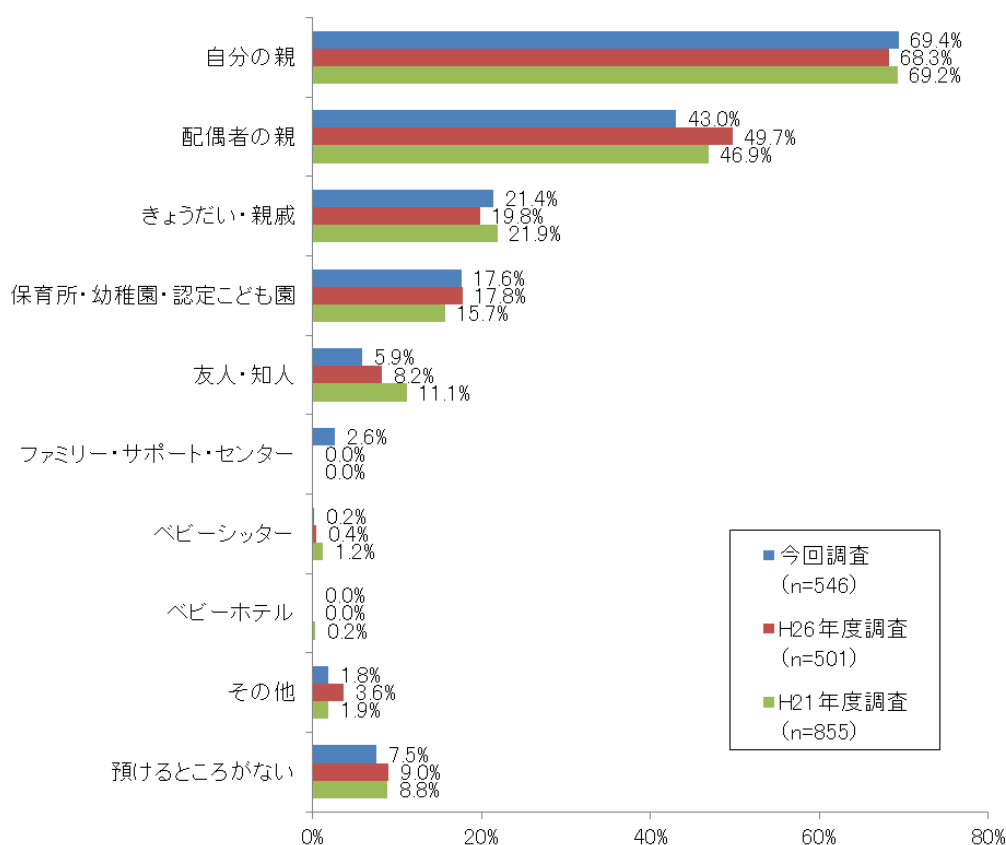
過去調査との比較では、概ね同様の結果となっている。

性別では、女性は「自分の親」(72.3%)、男性も「配偶者の親」(56.3%)でいわゆる”妻の実家”の割合が高くなっている。

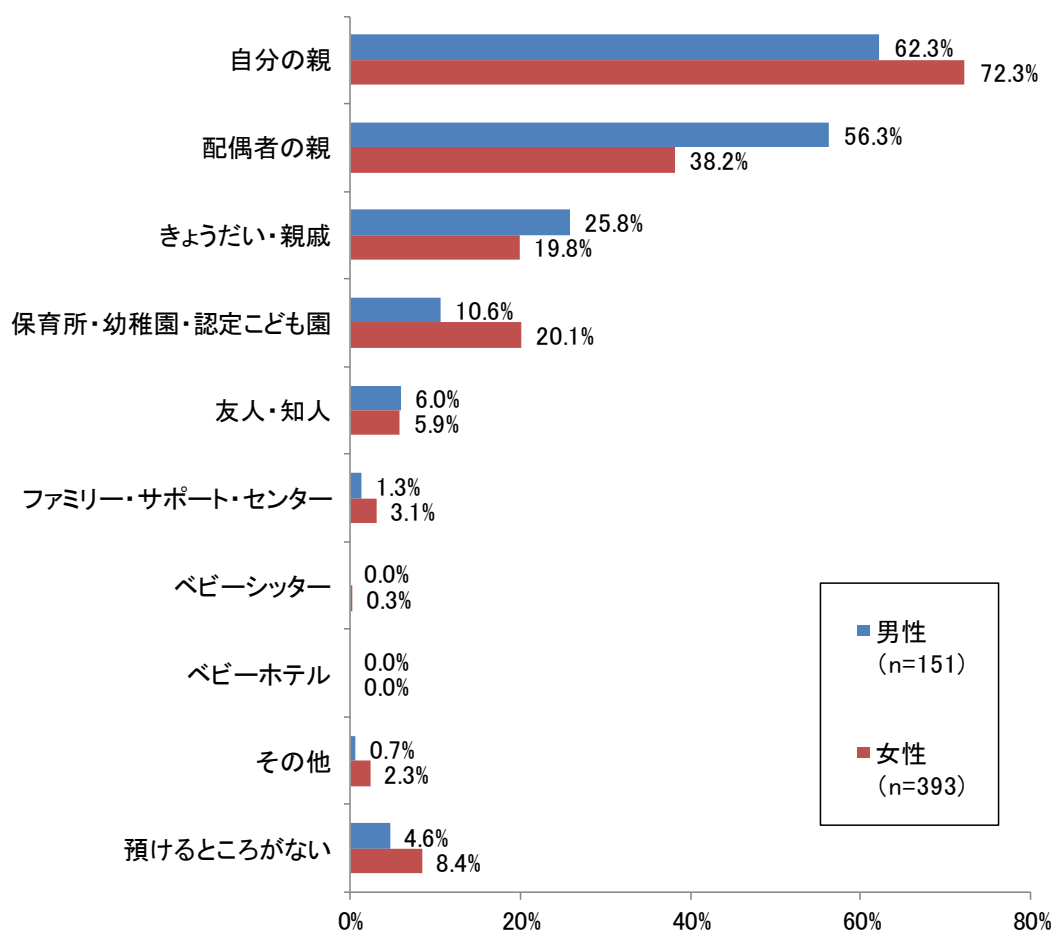
年代別では、いずれの年代も全体と概ね同様の傾向となっている。

二次医療圏別では、いずれの圏域も概ね同様の傾向となっている。その中で日南串間は「保育所・幼稚園・認定こども園」が31.8%で割合が高くなっている。また、宮崎東諸県では「預けるところがない」が11.9%で他の圏域よりも割合が高い状況にある。

<過去調査との比較>

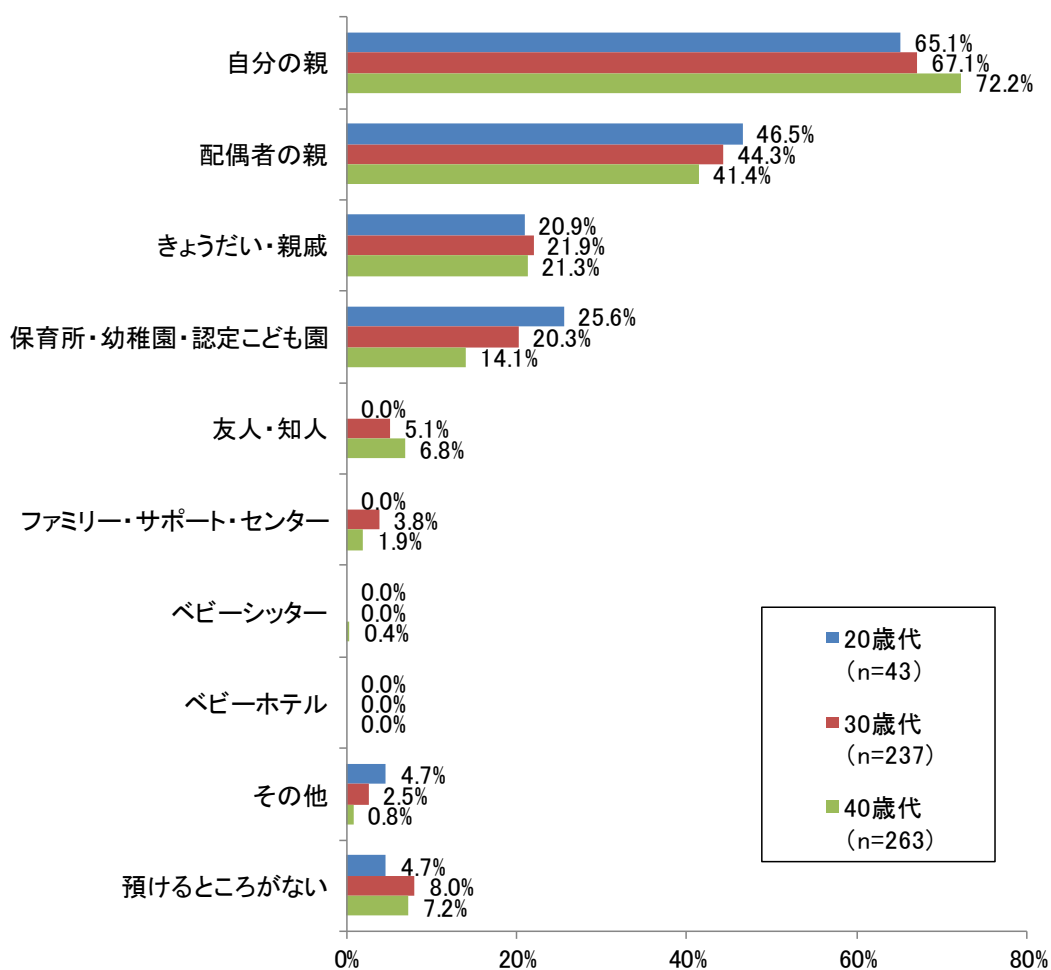


<性別>





<年代別>



<二次医療圏別>

	宮崎県北部 (n=66)	日向入郷 (n=45)	宮崎東諸県 (n=210)	西都児湯 (n=66)	日南串間 (n=22)	都城北諸県 (n=85)	西諸 (n=35)
自分の親	72.7%	71.1%	64.8%	65.2%	86.4%	70.6%	82.9%
配偶者の親	45.5%	48.9%	38.1%	53.0%	40.9%	36.5%	51.4%
きょうだい・親戚	18.2%	20.0%	20.0%	25.8%	13.6%	21.2%	31.4%
保育所・幼稚園・認定こども園	16.7%	22.2%	18.1%	15.2%	31.8%	14.1%	20.0%
友人・知人	4.5%	13.3%	5.2%	6.1%	4.5%	2.4%	8.6%
ファミリー・サポート・センター	4.5%	2.2%	1.4%	1.5%	0.0%	2.4%	8.6%
ベビーシッター	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ベビーホテル	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	4.4%	1.4%	1.5%	4.5%	2.4%	2.9%
預けるところがない	4.5%	4.4%	11.9%	1.5%	0.0%	7.1%	5.7%

問30 子どもを家族・親族以外の誰かに預けてリフレッシュしたいと思ったことはありますか。

(○は1つ)

「1 ある」が46.3%、「2 ない」が53.7%となっている。

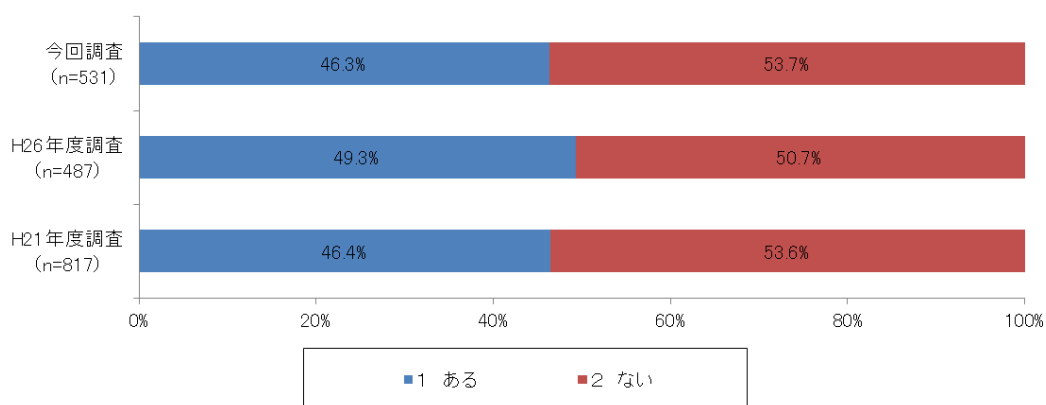
過去調査との比較では、概ね同様の傾向となっている。

性別では、女性の「1 ある」は51.0%で男性を18.1ポイント上回っている。

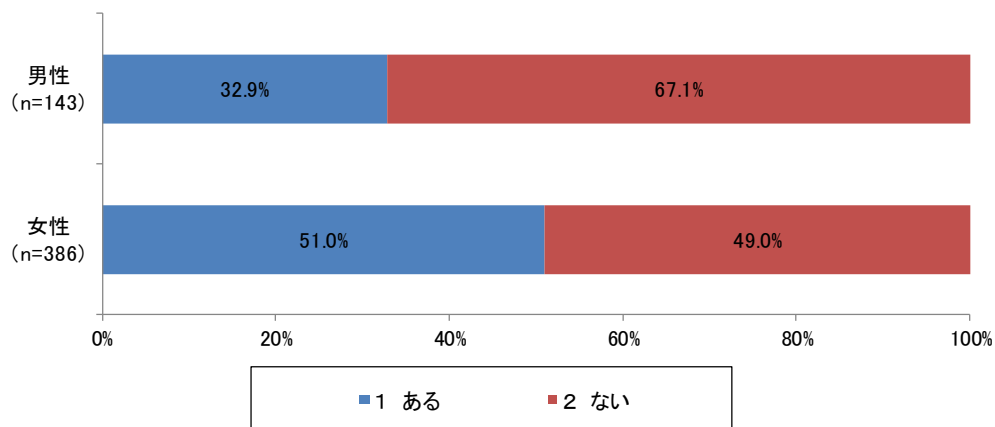
年代別では、いずれの年代も同様の傾向となっている。

二次医療圏別では、宮崎県北部と宮崎東諸県で「1 ある」が全体(46.3%)を上回っている。

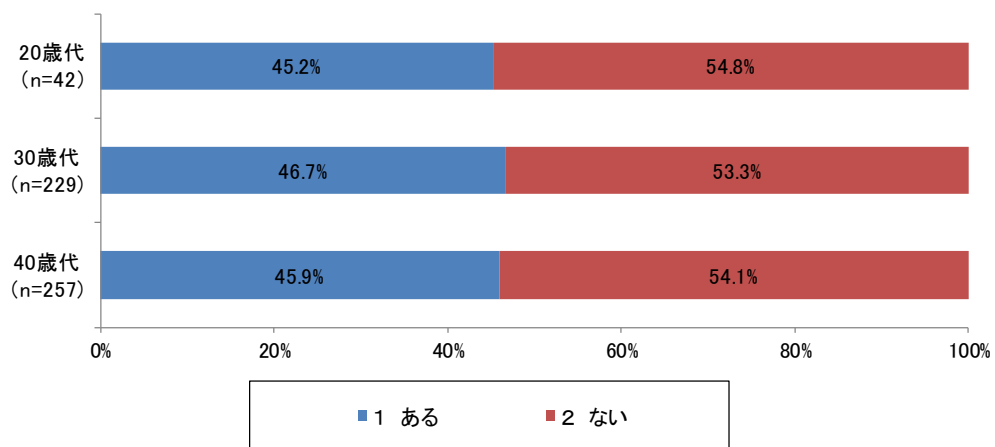
#### <過去調査との比較>



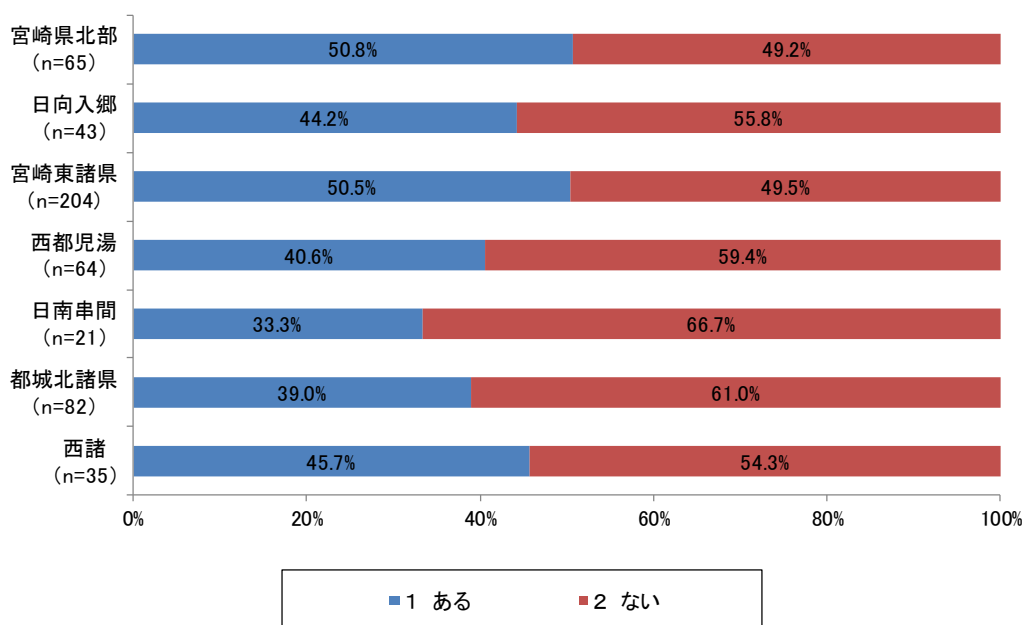
#### <性別>



<年代別>



<二次医療圏別>



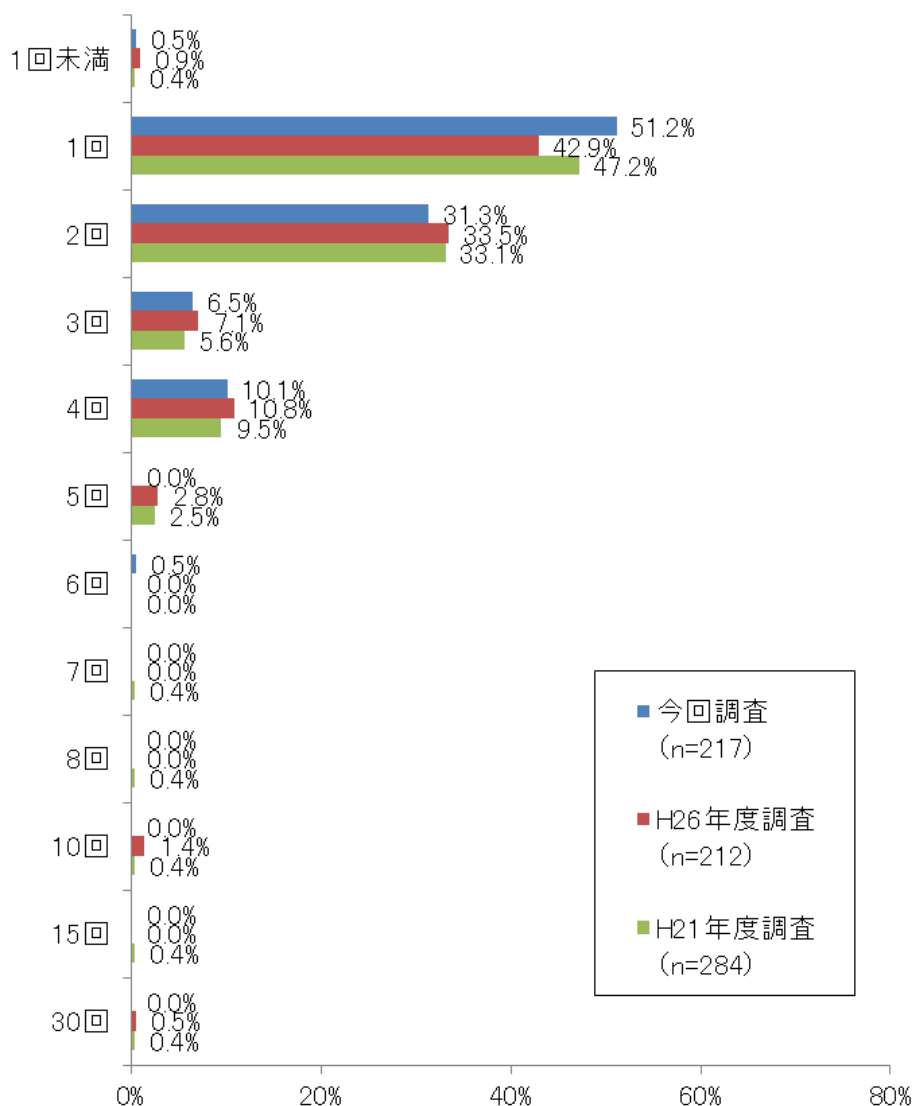
○ある場合は回数と平均的な時間をご記入ください。

(1) 月回数

「1回」が51.2%で最も多く、「2回」(31.3%)が次に多くなっている。

過去調査との比較では、概ね同様の傾向となっている。

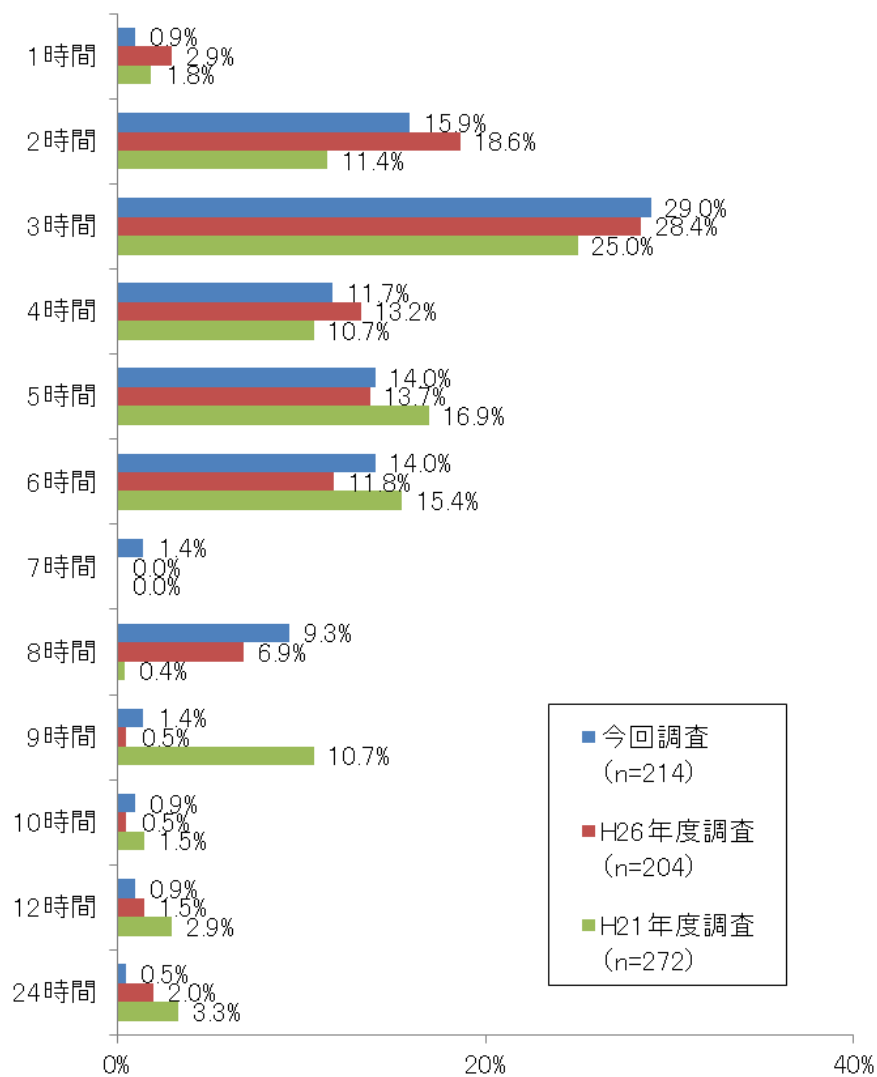
<過去調査との比較>



## (2) 1回あたり時間

「3時間」が29.0%で最も多く、「2時間」(15.9%)が次に多くなっている。  
過去調査との比較では、概ね同様の傾向となっている。

<過去調査との比較>



問31 問30で選択肢「1 ある」を選ばれた方におうかがいします。

子どもを預ける場合、どのようなサービスを希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

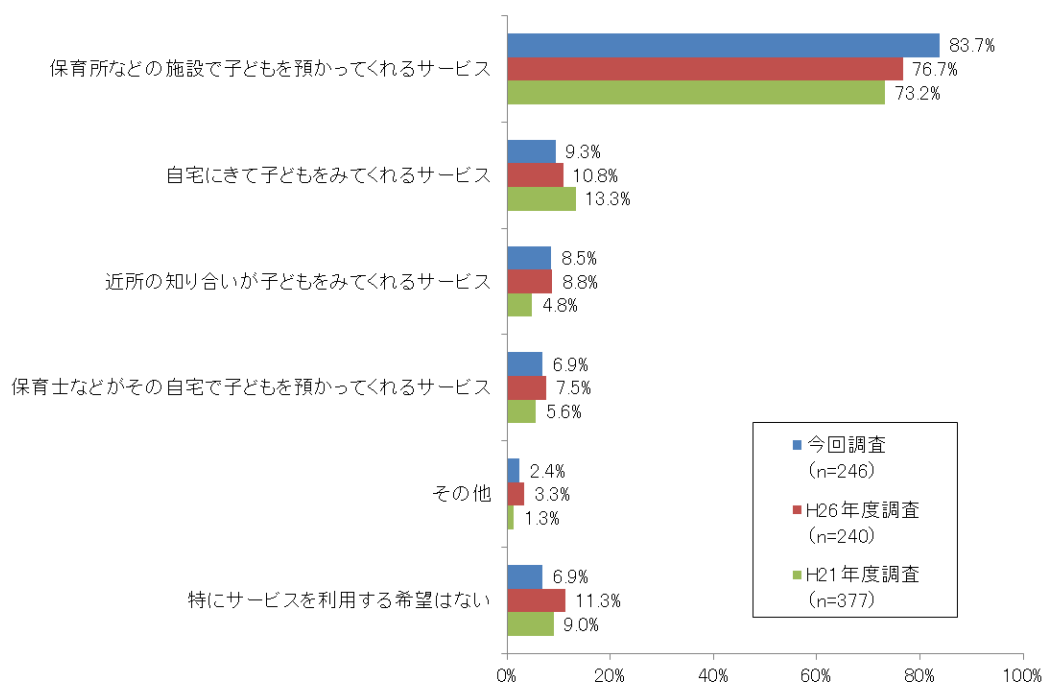
「保育所などの施設で子どもを預かってくれるサービス」(83.7%)の割合が最も高くなっている。

過去調査との比較では、いずれも概ね同様の傾向を示している。

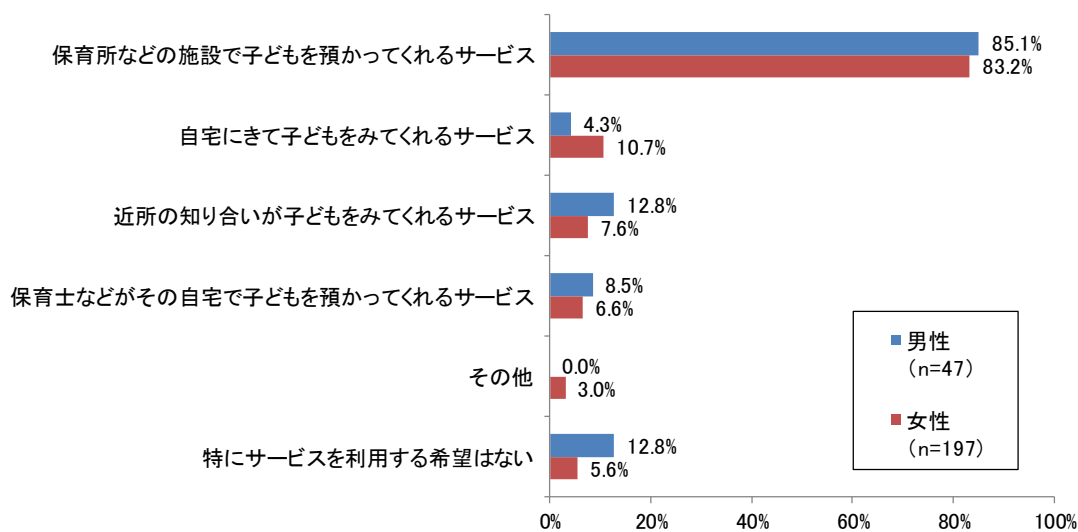
性別、年代別でも全体と概ね同様の傾向を示している。

※二次医療圏別は回答数が少ないため、分析は行わない。

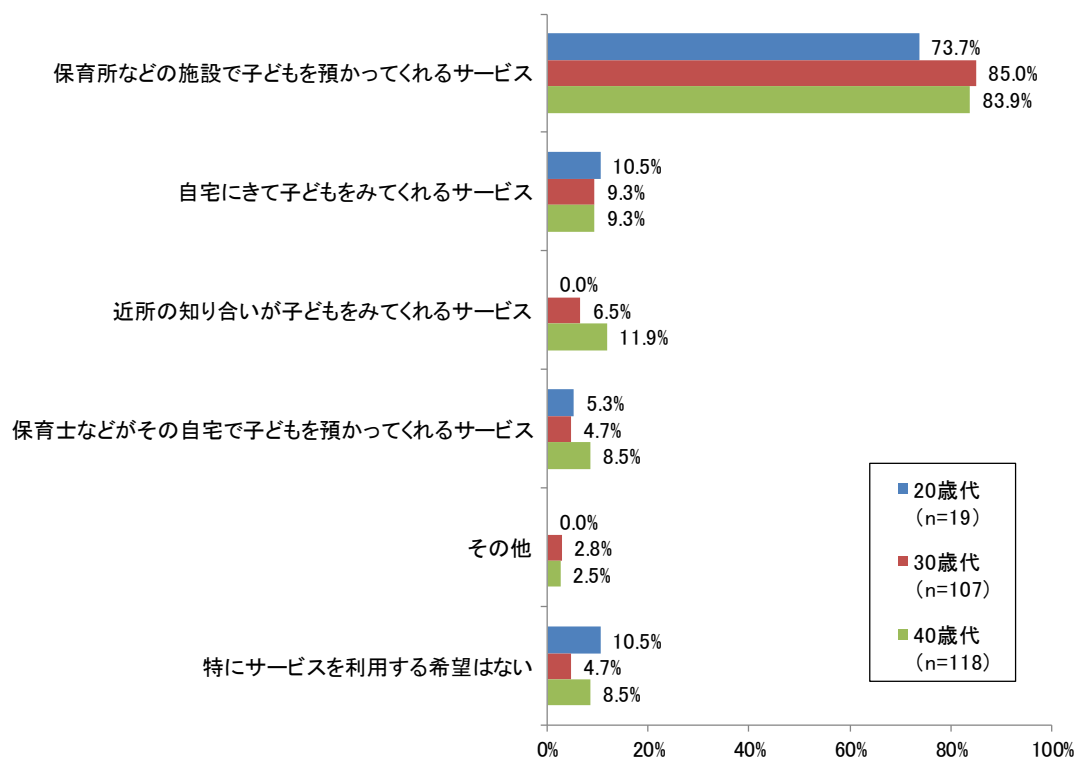
#### <過去調査との比較>



<性別>



<年代別>





<二次医療圏別>(参考)

	宮崎県北部 (n=33)	日向入郷 (n=19)	宮崎東諸県 (n=103)	西都児湯 (n=26)	日南串間 (n=7)	都城北諸県 (n=32)	西諸 (n=16)
保育所などの施設で子どもを預かってくれるサービス	78.8%	73.7%	85.4%	73.1%	85.7%	87.5%	93.8%
自宅にきて子どもをみてくれるサービス	12.1%	15.8%	6.8%	15.4%	0.0%	6.3%	12.5%
近所の知り合いが子どもをみてくれるサービス	9.1%	10.5%	7.8%	15.4%	0.0%	9.4%	6.3%
保育士などがその自宅子どもを預かってくれるサービス	3.0%	5.3%	6.8%	11.5%	0.0%	9.4%	6.3%
その他	6.1%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	3.1%	6.3%
特にサービスを利用する希望はない	12.1%	10.5%	5.8%	3.8%	14.3%	9.4%	0.0%

問32 子どもが病気や病気回復期であり、家族が面倒をみるのが困難な場合に、医療機関との連携のもとに看護師などが預かるサービスがあるとしたら、どのような条件の場合に利用したいと思いますか。(〇は1つ)

「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」(49.5%)の割合が最も高くなっている。次に「保育所などの専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」(40.0%)となっている。

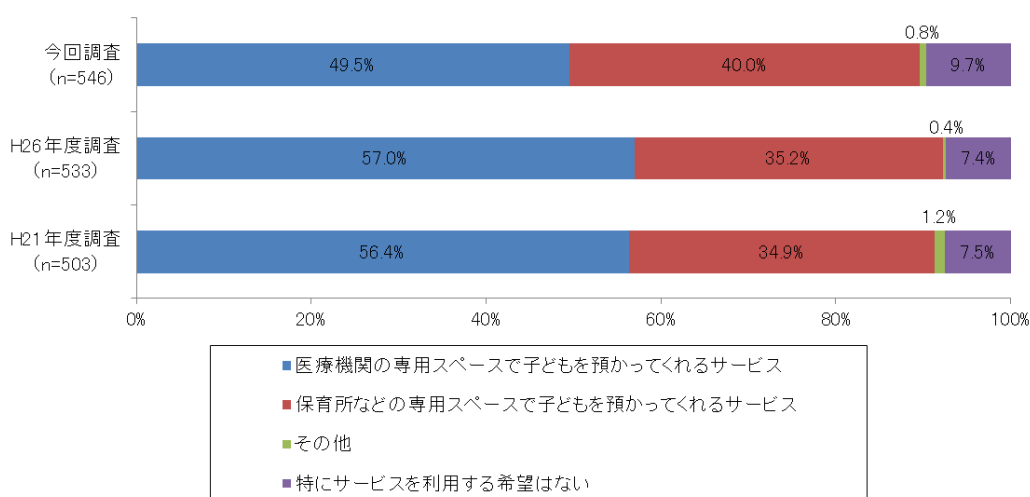
過去調査との比較では、概ね同様の傾向を示しているが、「保育所などの専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」の割合が増加傾向を示している。

性別では、男女とも全体と概ね同様の傾向を示している。

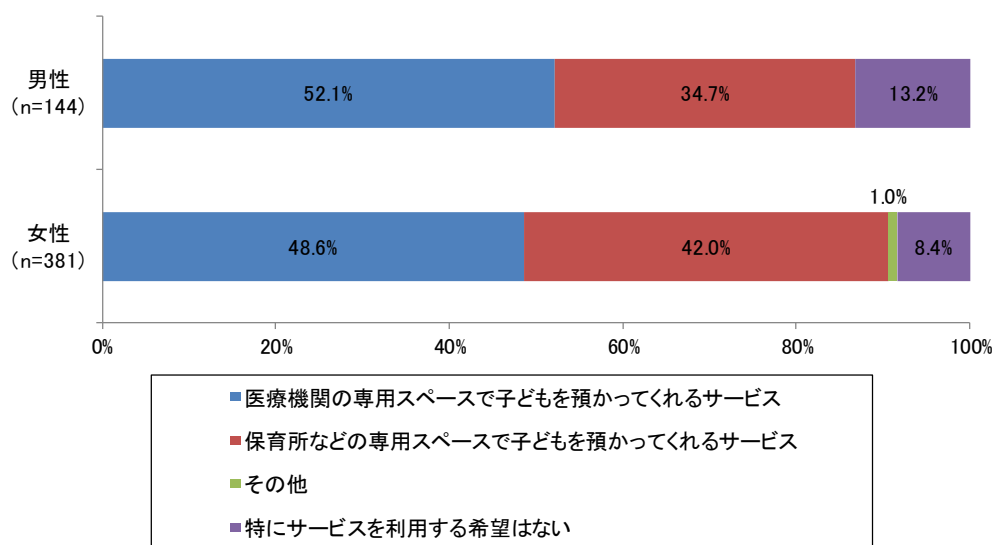
年代別では、若い年代では「保育所などの専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」、年代が高くなると「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」の割合が高くなっている。

二次医療圏別では、宮崎県北部、宮崎東諸県、西都児湯で「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」が全体(49.5%)を上回っている。日南串間では、「保育所などの専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」(57.1%)が全体(40.0%)を大きく上回っている。

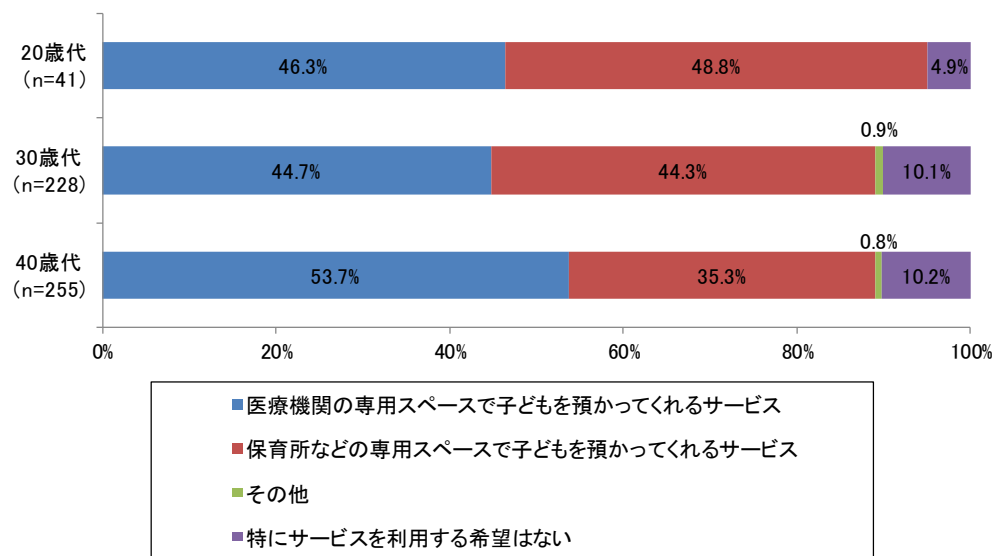
<過去調査との比較>



<性別>



<年代別>



<二次医療圏別>

